

# がん診療連携拠点病院 院内がん登録

---

2008-2009 年 5 年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター  
がん登録センター 院内がん登録分析室

平成 30 年 9 月  
国立がん研究センター がん対策情報センター

## がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2008-2009 年 5 年生存率集計

平成 28 年 1 月がん登録等の推進に関する法律が施行され、同第四十条第一項において、「専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする」とされている。また厚生労働省告示第四百七十号の院内がん登録の実施に係る指針では、「国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資すること」とされ、更には「病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資すること」と明記された。

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院から院内がん情報を収集し、がん診療連携拠点病院の実態把握のための一つの参考資料となるよう、毎年院内がん登録全国集計報告書を公表して参りました。また、院内がん情報をもととした生存率に関する資料として、2017 年 7 月に 2008 年診断例単年での 5 年生存率集計報告書を公表致しました。

この度、がん診療連携拠点病院等から 2008 年診断例、2009 年診断例の 5 年予後情報付の院内がん情報を収集し、がん診療連携拠点病院院内がん登録 2008-2009 年生存率集計報告書としてまとめました。本報告書では、がん診療連携拠点病院全体での病期、観血的治療の実施別に生存率を推定するだけでなく、都道府県、施設別の生存率集計においても、初めてがんの病期別に生存率を推定しました。がん患者さんの生存率には、院内がん情報としてデータ収集しているがんの病期、年齢、性別だけでなく、対象者の併存疾患の有無や身体機能の状態にも大きく影響を受けます。このように生存率集計結果の解釈について、依然課題はありますが、本報告書公表を契機として、がん診療連携拠点病院が一丸となりがん患者さんの治療に責任をもって取り組んでいることをご理解いただけますと幸いです。

平成 30 年 8 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

## 生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、がん診療連携拠点病院 2008 年、2009 年全国集計の結果を踏まえて、2008 年、2009 年に診断された例の 5 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られているため、また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る等、生存率の結果の解釈には留意する必要がある。

### 1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く産出されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がん(成人病)センター協議会(全がん協)の集計方法を踏まえて、生存状況把握割合が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

### 2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。

この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうか判定できなければならず、そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率にかわる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目玉されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

### 3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がん(成人病)センター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した

### 4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全がん協の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院に限ったデータであることに留意する必要がある。更に、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)、⑤組織型(肺がんの場合)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子  
2001年9月、大阪府立成人病センター調査部  
がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、  
癌の臨床 第46巻第10号、2000年9月、篠原出版新社

## 目 次

がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2008-2009 年 5 年生存率集計 .....	2
生存率について .....	3
I 2008-2009 年 5 年生存率集計 調査方法 .....	7
1. 収集の対象と方法 .....	7
(1) 収集の対象 .....	7
(2) 収集方法 .....	7
(3) 収集項目と定義 .....	7
2. 集計の対象と集計方法 .....	8
(1) 集計の対象 .....	8
(2) 集計の手順 .....	9
(2) 集計項目の定義 .....	10
(3) 集計方法 .....	10
(4) 公表の対象 .....	10
II 2008-2009 年 5 年生存率集計 結果概要 .....	13
1. 調査参加施設と登録数 .....	13
2. 集計対象 .....	13
3. 相対生存率集計対象者 .....	13
4. 都道府県別の罹患数との関係 .....	13
5. 既存生存率集計との比較 .....	23
III 2008-2009 年 5 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍> .....	26
1. 全がん .....	26
2. 胃(C16) .....	29
3. 大腸(C18-20) .....	31
4. 肝(C22) .....	33
5. 肺(C33-34) .....	35
6. 女性乳房(C50) .....	37
7. 食道(C15) .....	38
8. 膵臓(C25) .....	40
9. 子宮頸部(C53) .....	42
10. 子宮体部(C54) .....	43
11. 前立腺(C61) .....	44
12. 膀胱(C67) .....	45
付表(2008-2009 年 5 年生存率集計) .....	47
1. 生存状況把握割合について .....	
2. 2008-2009 年 5 年生存率集計 結果詳細(都道府県別) .....	
3. 2008-2009 年 5 年生存率集計 結果詳細(施設別) .....	



## I 2008-2009 年 5 年生存率集計 調査方法

### 1. 収集の対象と方法

#### (1) 収集の対象

本集計では、平成 28 年 7 月 20 日時点のがん診療連携拠点病院 427 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2009 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる全国のがん診療連携拠点病院に、「予後情報付集計」の名称で、2009 年 5 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 21 (2009) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者\*である。これら対象例の 5 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。また、2008 年診断例のデータについては、平成 27 年の院内がん登録 2008 年予後情報付集計の際に提出されたデータを用いた。

#### \* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数のがん診療連携拠点病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

#### (2) 収集方法

平成 28 年 7 月 20 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 28 年 7 月 25 日から 8 月 12 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を

実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供及び従来の光学メディア記録の形でのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としない。

#### (3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 5 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

#### \* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

なお、2008 年診断例の追跡期間は、予後調査結果が死亡であっても、死亡日が不明の場合は、生存最終確認日で追跡期間が計算されていた。今回、2008 年と 2009 年診断例を合わせて生存率を算出するにあたり、2009 年の追跡期間の算出方法に合わせるために、2008 年診断例で予後調査結果が死亡の場合、提出された起算日(診断日)と死亡日からみて、登録されている追跡期間が範囲外にある例については、死亡日不明(追跡終了日不明)として、集計から除外した。

$$\text{追跡期間 (日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2009 年全国集計報告書を参照いただきたい。

#### i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設を受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

#### ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一

つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

### iii. 臨床病期

#### 治療前ステージ

UICC (International Union Against Cancer) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままで登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

#### 術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2008-2009年登録対象は UICC TNM 第6版標準拠で登録されている。

### iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であると

いえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

#### ① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

#### ② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

#### ③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

#### ④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法(鎮痛剤、制吐剤)などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法(TACE)に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

#### ⑤ 外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

## 2. 集計の対象と集計方法

### (1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2008 及び 2009 年に診断された例で次の i から iii を満たす例を集計対象とした。

#### i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

#### ii. 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位(悪性新生物<腫瘍>)」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

#### iii. 年齢

診断時の年齢が 0 から 99 歳までの例を集計対象とした。

## (2) 集計の手順

### ①集計対象例の選定

提出されたデータから上記の i から iii に該当する例を抽出した。

#### i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表 1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表 1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目：集計用診断日」、「項目：集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が 2, 3 であった例を集計対象とした。

#### ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目：330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第 5 桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であったも集計対象に含めた。

#### iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月 >= 生年月日の月

⇒診断年月の年 - 生年

診断年月の月 < 生年月日の月

⇒診断年月の年 - 生年 - 1

上記で求めた年齢が 0~99 歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㉗~㉙に該当する場合は集計対象から除外した。

#### ㉗性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目：性別が 9)であった者を除外した。

#### ㉘追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目 660：予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

#### ㉙UICC TNM 分類総合ステージが 0 期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要な要因である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔

鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとして UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外は UICC TNM 分類治療前ステージを UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが 0 期であった場合は、集計対象から除外した。

### ② 追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2008 年例については集計の際に、各施設で入力された追跡期間(日数)が集計側で死亡日(年月)または生存最終確認日(年月)から算出した追跡可能期間の範囲内にあるか否かを検討した。その結果、データ提出時に登録された追跡期間(日数)がデータ集計側で計算された追跡可能期間(日数)の幅に当てはまらない例が少なからず認められた。追跡可能期間(日数)の幅に当てはまらなかった例が 5 例以上認められた施設にはデータの確認を依頼した。主な施設側と集計側における追跡期間が乖離した原因としては、死亡日の年月(YYYYMM)の情報があるが日付(DD)情報が不明であった場合、施設側では追跡期間を算出する際に追跡終了日として最終生存確認日が用いられていた例であった。院内がん登録では、死亡日、最終生存確認日を含め日付情報は、年月までの情報しか収集されていない。そのため、データ集計側では年月までの情報がある場合にはそれらの情報を優先して集計を行っている。こうした保持している情報量の違いが、追跡期間を確認した際の差となったと考えられる。そこで本集計では、死亡日の日付(DD)情報が不明であった場合でも、年月の情報があり、その情報が確からしい場合にはその月の初め(1 日)までは生存が確認できていたとして、追跡期間(日数)を再度算出してもらい集計に用いた。2009 年例については、品質管理ロジックの変更にともないこのような例はなかった。

### ③ 集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。5 年生存率を計算する場合には、対象者全員の 5 年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がん(成人病)センター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を 100%に近づけるほど、真の値に近づくこととされ、概ね 95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がん(成人病)センター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が 90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経

緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例(2008年と2009年合算での全がん)の生存状況把握割合が90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が5年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合 = (1 - (打ち切り例数) / 集計対象例数) × 100

## (2) 集計項目の定義

### ● 部位区分

表1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

### ● 臨床病期

#### UICC TNM 分類総合ステージ

2008年、2009年診断例では、UICC TNM 分類第6版に準拠してUICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されており、第6版では、癌(Carcinoma)のみが分類の対象である(肝臓については肝細胞癌、肝内胆管癌に適用)。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されているTNM情報からみてステージがUICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149,  
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,  
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,  
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,  
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,  
8020-8022, 8050, 8000-8005

但し、前立腺は8120-8131を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

### ● 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録

の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

## (3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、5年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が5年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、5年後の生存状況=死亡(1)とした。

生存率は、 Kaplan-Meier法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターにおいて作成されたコホート生存率表(2014年版)を用い、Ederer II法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

なお、本報告書より施設別相対生存率は、他死因を調整しきれないため施設別実測生存率のみ算出する。

## (4) 公表の対象

平成29年度第1回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が30例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が30例未満の場合は、5年生存率を公表しないこととする。施設別生存率の公表においては、各施設においてデータ精度を含め、公表の可否について検討していただいたのち、公表可の場合は生存率を施設からの意見とともに公表する。公表を差し控える場合においても、施設からの意見がある場合には意見とともに公表する。都道府県別集計値については、各都道府県の協議会等で検討していただいた後、都道府県の意見を合わせて公表する。なお、各集計表において、集計値が10以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、値を伏せて-(ハイフン)で表記した。

### 参考資料

1)全国がん(成人病)センター協議会・全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1: 診断のみ	診断日2	
2: 自施設診断自施設治療	診断日2	
3: 他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5: 剖検	診断日2	死亡日
8: その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

\* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2008 又は 2009 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1: 初発	1: 自施設診断	1: 自施設で治療	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	3: 自施設で経過観察	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	4: 他施設へ紹介	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	8: 来院中断	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	9: その他	1: 診断のみ
1: 初発	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	9: その他	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	9: その他	8: その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

## II 2008-2009年5年生存率集計 結果概要

### 1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した427施設のうち、315施設から2009年5年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率73.8%)。また、平成27年に調査した2008年5年予後情報付腫瘍データを提出した施設については、2008年5年予後情報付腫瘍データも合わせて集計した。表2-1に全登録数と集計対象を示す。

### 2. 集計対象

#### (1) 集計の対象

##### ① 集計対象例の選定

##### i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出されたデータ全体(2008年、2009年の合算)で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分2)」が496,937例(62.4%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分3)」が163,066例(20.5%)であり、全登録数の82.9%を占めた。施設の全登録数に占める自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療の登録割合は平均84.1%で49.1~99.0%と幅があった。

##### ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分2,3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)は、593,613例(89.9%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、603,580例(91.5%)であった。

##### iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100歳以上が125例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70歳代が31.7%と最も多く、次いで60歳代が27.9%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明若若干名及びUICC TNM分類総合ステージ0期299例を集計対象から除外した。

##### ② 追跡期間(日数)の確認

データ提出された追跡期間(日数)が集計側で起算日及び死亡日又は最終生存確認日から計算した追跡可能期間(日数)の幅に当てはまらなかった例が施設当たり5例未満であった場合は、起算日及び死亡日又は最終生存確認日の日付を1日として集計側で算出した追跡期間(日数)を生存率の算出に用いた。

#### (2) 生存状況把握割合

各施設における症例区分2又は3、及び悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)の全登録数に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、11.3%で、最も高かった施設は100.0%であった。提出されたデータ全体でみると生存状況把握割合は92.6%であった。都

道府県・施設別生存状況把握割合について図2-1に示した。以降の集計結果では、2008年と2009年合算で生存状況把握割合が90%以上であった251施設における登録例を集計対象とした。

### 3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が90%以上であった251施設において症例区分2,3かつ新生物<腫瘍>の性状コードが3(悪性新生物<腫瘍>)と登録されていたのは、493,861例で、脳の腫瘍性疾患の良性、良性又は悪性の別不詳を含めると501,897例であった。そのうち、UICC TNM分類治療前ステージが0期、性別不詳、追跡終了日不明例226例を除く501,569例を集計対象とした。

### 4. 都道府県別の罹患数との関係

各都道府県における拠点病院の診療実績を測る方法の一つとして、各県全体のがん罹患数に占める拠点病院で診療を受けた者の割合をみることは有用である。しかし、2009年時点ではがん罹患数が把握されていない都道府県が複数存在する。そのため、2012年院内がん登録全国集計報告書で用いられていた方法で、都道府県別のがん罹患数を概算し、参考値として示した。

1. 2009年の日本全体のがん罹患数の推計値を得る
2. 同年の日本全体のがんによる死亡数を得る
3. 1と2の比(がん罹患・死亡比)を得る<sup>1)</sup>
4. 各都道府県のがん罹患のリスク(がんの罹りやすさ)は同じと仮定する。
5. 2009年の都道府県別のがんによる死亡数を得て、3で得られたがん罹患・死亡比を乗じることで、おおよその2009年がん罹患数を都道府県別に求めた。

- 都道府県別2009年概算がん罹患数  
=2009年都道府県別がん死亡数  
×2009年がん罹患・死亡比

#### 2009年がん罹患・死亡比

=2009年罹患推計利用37地域から推計された日本のがん罹患数(上皮内癌を除く)と、2009年日本のがんによる死亡数の比=2.18

上記で得られた2009年のがん罹患数を分母として、分子を本集計の診断時住所別にみた全登録数として、概算罹患数に占める拠点病院による登録数の割合を都道府県別に試算した(表2-3)。

- 拠点病院登録割合(%)  
=拠点病院2009年生存率集計全登録数÷概算罹患数

2009年生存率集計に参加した拠点病院登録割合は、約58.2%であった。割合が小さかったのは青森県35.6%、大阪府36.1%であった。参考に、全国がん罹患モニタリ

ング集計 2009 年罹患数・率報告<sup>1)</sup>にて報告された 2009 年推計罹患数と各地域がん登録に基づく実測値(推計参加登録 37 地域)を分母とした場合の拠点病院登録割合を示した。DCN%とは、地域がん登録の罹患数に占める死亡診断書情報によって初めて把握されたがんの割合を指し、大きいほど登録漏れが大きいとされている。都道府県別にみると、ここで概算した 2 種類の登録割合に 10%以上差が認められる都道府県があった。なお、ここではがん罹患・死亡比が都道府県で一定であると仮定して推計している。都道府県によってがん罹患・死亡

比が異なる可能性があることに留意して値をみる必要がある。

## 参考資料

1) 国立がん研究センターがん対策情報センター編: 全国がん罹患モニタリング集計 2009 年罹患数・率報告 (2014 年 3 月)

表 2-1 全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	64 施設	(%)	251 施設	(%)	315 施設	(%)
<b>全登録数</b>	133,446	100.0	662,879	100.0	796,325	100.0
<b>症例区分別登録数</b>						
1. 診断のみ	6,800	5.1	30,118	4.5	36,918	4.6
2. 自施設診断・自施設初回治療	83,635	62.7	413,302	62.3	496,937	62.4
3. 他施設診断・自施設初回治療	27,535	20.6	135,531	20.4	163,066	20.5
4. 初回治療開始後・再発	12,436	9.3	60,957	9.2	73,393	9.2
5. 剖検	60	0.0	330	0.0	390	0.0
6. 不明・その他	2,980	2.2	22,641	3.4	25,621	3.2
症例区分(2, 3)(再掲)	111,170	83.3	548,833	82.8	660,003	82.9
<b>症例区分 2, 3のうち</b>						
良性	1,590	1.4	6,848	1.2	8,438	1.3
良性又は悪性の別不詳	341	0.3	1,188	0.2	1,529	0.2
上皮内癌	9,487	8.5	46,936	8.6	56,423	8.5
悪性新生物<腫瘍>	99,752	89.7	493,861	90.0	593,613	89.9
集計対象腫瘍*	101,683	91.5	501,897	91.4	603,580	91.5
<b>症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち</b>						
年齢 0~14 歳	439	0.4	1,989	0.4	2,428	0.4
15~39 歳	3,582	3.5	17,784	3.5	21,366	3.5
40 歳代	6,294	6.2	30,932	6.2	37,226	6.2
50 歳代	15,086	14.8	75,503	15.0	90,589	15.0
60 歳代	28,192	27.7	140,486	28.0	168,678	27.9
70 歳代	32,314	31.8	159,144	31.7	191,458	31.7
80-99 歳	15,753	15.5	75,957	15.1	91,710	15.2
100 歳以上	23	0.0	102	0.0	125	0.0
0~99 歳 (再掲)	101,660	100.0	501,795	100.0	603,455	100.0
<b>除外対象</b>	73	0.1	226	0.0	299	0.0
性別不詳	0	0.0	-	0.1	-	0.0
追跡終了日不明	34	7.7	101	5.1	135	5.6
総合ステージ 0 期	24	5.5	81	4.1	105	4.3
* 死亡例だが最終生存確認日で追跡期間算出	15	3.4	43	2.2	58	2.4
<b>集計対象例</b>	101,587		501,569		603,156	

表 2-2 調査参加 315 施設的全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分 2, 3）登録 割合
総数		796,325	496,937	163,066	82.9
北海道	独) 国立病院機構北海道がんセンター★	3687	1966	781	74.5
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	2822	1767	524	81.2
	王子総合病院	1687	1303	194	88.7
	市立札幌病院	2069	1584	291	90.6
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	2412	1926	342	94.0
	北見赤十字病院	1935	1261	286	79.9
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	1093	639	84	66.1
	函館厚生院 函館五稜郭病院	1390	1178	153	95.8
	札幌医科大学附属病院	3867	1833	926	71.3
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	1407	888	238	80.0
	医療法人手稲溪仁会病院	3595	2259	601	79.6
	旭川医科大学病院	2772	1389	897	82.5
	独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院	1243	1007	190	96.3
	KKR 札幌医療センター	1260	1049	102	91.3
青森	青森県立中央病院★	3488	2124	709	81.2
	八戸市立市民病院	2023	1430	402	90.6
	三沢市立三沢病院	676	476	92	84.0
岩手	岩手県立中央病院	3598	2641	650	91.5
	岩手県立二戸病院	779	480	102	74.7
	岩手医科大学附属病院★	4024	1897	1550	85.7
	岩手県立中部病院	1434	790	290	75.3
	岩手県立磐井病院	1213	761	304	87.8
	岩手県立宮古病院	860	592	132	84.2
	岩手県立久慈病院	317	226	41	84.2
	岩手県立釜石病院	421	216	101	75.3
宮城	東北大学病院★	6319	2434	1706	65.5
	宮城県立がんセンター★	3695	2063	718	75.3
	石巻赤十字病院	2508	1666	298	78.3
	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	1921	1278	537	94.5
	大崎市民病院	3042	2108	527	86.6
	独立行政法人労働者健康安全機構東北労災病院	1459	983	290	87.3
秋田	秋田大学医学部附属病院★	3053	1378	982	77.3
	秋田県厚生連 由利組合総合病院○	1117	909	117	91.9
	大曲厚生医療センター	1286	955	212	90.7
	秋田県厚生連 平鹿総合病院	881	717	128	95.9
	秋田厚生連 能代厚生医療センター○	954	720	115	87.5
	秋田赤十字病院	2254	1655	336	88.3
	秋田県厚生農業協同組合連合会秋田厚生医療センター	1610	1158	290	89.9
山形	山形県立中央病院★	3302	2398	646	92.2
	山形大学医学部附属病院	1396	742	394	81.4
	山形市立病院済生館	1743	1324	200	87.4
	置賜広域病院組合 公立置賜総合病院	1452	965	373	92.1
	日本海総合病院	2652	1398	1009	90.8
福島	一般財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	676	410	159	84.2
	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院★	3916	1807	940	70.1
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	3275	2192	600	85.3
	竹田総合病院	2053	1106	525	79.4
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	3219	1769	660	75.5
	一般財団法人温知会 会津中央病院	1447	1117	182	89.8
茨城	茨城県立中央病院★	2777	1756	546	82.9
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター	816	550	104	80.1
	茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院 土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	3108	2301	377	86.2
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセンター	1562	1112	255	87.5

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
茨城	友愛記念病院	1608	795	283	67.0
	茨城県厚生農業協同組合連合会茨城西南医療センター病院	892	572	82	73.3
	筑波大学附属病院	3636	2074	956	83.3
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター★	3834	2052	1022	80.2
	自治医科大学附属病院	6357	3771	1510	83.1
	栃木県済生会宇都宮病院	2960	2303	342	89.4
	獨協医科大学病院	2256	1593	426	89.5
	那須赤十字病院	857	612	48	77.0
群馬	群馬県立がんセンター	1881	853	627	78.7
	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	823	584	156	89.9
	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	1583	1099	196	81.8
	公立富岡総合病院	1675	1137	273	84.2
	桐生厚生総合病院	1545	1287	76	88.2
	前橋赤十字病院	2278	1606	447	90.1
埼玉	さいたま赤十字病院	2178	1695	329	92.9
	埼玉県立がんセンター★	6472	3587	2125	88.3
	深谷赤十字病院	1343	1119	193	97.7
	春日部市立医療センター	1316	809	137	71.9
	埼玉医科大学総合医療センター	4253	2474	714	75.0
	獨協医科大学越谷病院	1270	887	237	88.5
	川口市立医療センター	1933	1342	295	84.7
	埼玉医科大学国際医療センター	7108	3451	2229	79.9
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院	2015	1456	155	80.0
	千葉	国立がん研究センター東病院★★	9145	3624	3035
国保旭中央病院		4428	3630	390	90.8
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院		4440	3246	668	88.2
国保直営総合病院 君津中央病院		2339	1684	241	82.3
独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院		1732	1282	297	91.2
船橋市立医療センター		1822	1290	397	92.6
千葉大学医学部附属病院		4615	2619	1519	89.7
独立行政法人国立病院機構千葉医療センター		1513	1142	268	93.2
東京歯科大学市川総合病院		2053	1418	209	79.2
順天堂大学医学部附属浦安病院		2876	2056	407	85.6
東京慈恵会医科大学附属柏病院		2387	1991	149	89.7
国保松戸市立病院		1072	576	96	62.7
日本医科大学千葉北総病院		1822	1260	314	86.4
東京		国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院★★	13518	4762	3828
	東京都立駒込病院★	7208	3692	1411	70.8
	青梅市立総合病院	1279	1144	121	98.9
	N T T東日本関東病院	2064	1182	451	79.1
	日本赤十字社医療センター	3431	1753	559	67.4
	日本大学医学部附属板橋病院	3492	2377	516	82.8
	武蔵野赤十字病院	3717	2463	542	80.8
	がん研有明病院★	17473	5789	5052	62.0
	日本医科大学付属病院	4613	2819	1095	84.8
	聖路加国際病院	4512	2647	955	79.8
	帝京大学医学部附属病院	3368	1960	775	81.2
	杏林大学医学部付属病院	3000	2384	517	96.7
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	3371	1884	827	80.4
	昭和大学病院	1818	1218	342	85.8
神奈川	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター★	5284	2835	1698	85.8
	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院	3871	2764	568	86.1
	横浜市立市民病院	2827	2044	553	91.9
	相模原協同病院	1999	1205	253	72.9
	聖マリアンナ医科大学病院	4092	3516	352	94.5

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
神奈川	東海大学医学部付属病院	5833	3658	1326	85.4
	藤沢市民病院	1968	1452	309	89.5
	北里大学病院	4218	2991	921	92.7
	横浜労災病院	3176	2010	351	74.3
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院★	5712	3444	1853	92.7
	新潟県立中央病院	2383	1676	461	89.7
	新潟市民病院	2848	2135	550	94.3
	長岡赤十字病院	1551	1190	253	93.0
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院	2933	2144	678	96.2
	新潟大学歯学総合病院	3884	2039	1204	83.5
	県立新発田病院	2220	1524	518	92.0
	独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院	853	718	118	98.0
富山	富山県立中央病院★	4232	2810	864	86.8
	黒部市民病院	1272	1050	122	92.1
	労働者健康安全機構富山労災病院	242	225	3	94.2
	富山大学附属病院	2041	1297	405	83.4
	富山県厚生連高岡病院	2279	1722	306	89.0
	高岡市民病院	1312	1051	114	88.8
	市立砺波総合病院	1251	968	70	83.0
石川	国立大学法人金沢大学附属病院★	3445	1793	870	77.3
	金沢医療センター	1162	843	128	83.6
	石川県立中央病院	3162	1941	880	89.2
	金沢医科大学病院	1983	1313	331	82.9
	小松市民病院	1381	976	141	80.9
福井	福井県立病院★	2666	1882	432	86.8
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	2529	1863	418	90.2
	福井赤十字病院	2114	1720	213	91.4
	福井大学医学部附属病院	2043	1238	575	88.7
山梨	山梨県立中央病院★	3223	2022	554	79.9
	山梨大学医学部附属病院	2954	1879	562	82.6
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター	2499	1646	774	96.8
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院★	3156	1761	754	79.7
	諏訪赤十字病院	1626	1155	342	92.1
	飯田市立病院	1179	885	198	91.9
	長野市民病院	2759	1789	685	89.7
	長野赤十字病院	2527	1581	467	81.0
	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	2192	1572	237	82.5
	伊那中央病院	1358	1002	227	90.5
岐阜	岐阜市民病院	2455	1817	364	88.8
	国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院★	3439	1690	967	77.3
	高山赤十字病院	867	731	27	87.4
	岐阜県総合医療センター	2828	1833	456	80.9
	岐阜県立多治見病院	2128	1646	286	90.8
	大垣市民病院	3202	2629	341	92.8
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	2135	813	236	49.1
静岡	静岡県立静岡がんセンター★	9533	4554	3196	81.3
	静岡県立総合病院	4515	2913	1067	88.2
	社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷三方原病院	2585	1642	320	75.9
	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	3923	2684	764	87.9
	順天堂大学医学部附属静岡病院	2633	1727	326	78.0
	静岡市立静岡病院	1286	1079	112	92.6
	藤枝市立総合病院	2068	1580	162	84.2
	浜松医科大学医学部附属病院	2566	1369	745	82.4
	浜松医療センター	1878	1300	285	84.4
	磐田市立総合病院	788	612	116	92.4

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
愛知	愛知県がんセンター中央病院★	5435	2539	2327	89.5
	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	3647	2656	365	82.8
	海南病院	1880	1507	198	90.7
	国立病院機構 名古屋医療センター	2340	1855	211	88.3
	小牧市民病院	3109	2345	423	89.0
	豊橋市民病院	3252	2573	462	93.3
	名古屋大学医学部附属病院	4553	2183	1725	85.8
	一宮市立市民病院	2259	1876	339	98.1
	公立陶生病院	2100	1746	196	92.5
	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	2240	1595	270	83.3
	名古屋第一赤十字病院	3612	2613	450	84.8
	名古屋第二赤十字病院	3474	2620	399	86.9
	藤田保健衛生大学病院	2268	1317	708	89.3
	三重	日本赤十字社 伊勢赤十字病院	2810	1986	370
松阪中央総合病院		1424	1080	79	81.4
国立大学法人 三重大学医学部付属病院★		1485	815	413	82.7
三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院		1785	1497	126	90.9
滋賀	市立長浜病院	878	815	40	97.4
	滋賀県立成人病センター★	1991	1384	321	85.6
	大津赤十字病院	2423	1858	326	90.1
	彦根市立病院	539	381	46	79.2
	滋賀医科大学医学部附属病院	1270	723	363	85.5
京都	京都市立病院	1945	1283	225	77.5
	京都第一赤十字病院	2743	2070	455	92.1
	京都第二赤十字病院	2875	2193	280	86.0
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	2968	2058	478	85.4
	市立福知山市民病院	1332	801	201	75.2
	社会医療法人岡本病院（財団）京都岡本記念病院○	741	492	26	69.9
大阪	市立岸和田市民病院	2475	1742	334	83.9
	東大阪市立総合病院	2288	1781	269	89.6
	市立豊中病院	3001	2240	444	89.4
	大阪府立成人病センター★	6530	4929	437	82.2
	大阪市立総合医療センター	5004	2912	1099	80.2
	大阪赤十字病院	4007	3165	556	92.9
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	1413	953	254	85.4
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	2814	1947	507	87.2
	大阪医科大学附属病院	3700	1840	1327	85.6
	公立大学法人大阪市立大学医学部附属病院	3247	1998	867	88.2
	国立病院機構 大阪医療センター	1449	1019	290	90.3
	八尾市立病院	830	683	64	90.0
兵庫	兵庫県立がんセンター★	6164	3317	1770	82.5
	国立大学法人 神戸大学医学部附属病院	6310	2794	1699	71.2
	神戸市立医療センター中央市民病院	3451	2335	801	90.9
	独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	3341	1959	730	80.5
	公立学校共済組合近畿中央病院	1380	1005	216	88.5
	赤穂市民病院	1128	938	71	89.5
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	1579	1161	259	89.9
	兵庫県立淡路医療センター	1376	1061	147	87.8
	兵庫医科大学病院	2493	1257	550	72.5
	兵庫県立柏原病院	353	154	107	73.9
	奈良	奈良県立医科大学附属病院★	4270	2232	820
奈良県総合医療センター		1406	950	333	91.3
天理よろづ相談所病院		2921	2411	481	99.0
和歌山	紀南病院	1370	781	248	75.1
	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター	828	457	257	86.2
	日本赤十字社和歌山医療センター	2472	2122	269	96.7

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
和歌山	橋本市民病院	1014	567	172	72.9
	公立那賀病院	571	362	102	81.3
鳥取	鳥取県立厚生病院	512	378	60	85.5
	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	1032	642	166	78.3
	鳥取県立中央病院	1356	1187	83	93.7
	鳥取大学医学部附属病院★	1298	904	239	88.1
島根	松江赤十字病院	2183	1649	282	88.5
	島根大学医学部附属病院★	2349	1537	460	85.0
	島根県立中央病院	2630	2038	269	87.7
	浜田医療センター	992	690	139	83.6
岡山	岡山済生会総合病院	3190	1888	631	79.0
	総合病院岡山赤十字病院	1680	1246	209	86.6
	岡山大学病院★	1633	758	683	88.2
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	5816	4332	726	87.0
	津山中央病院	1386	969	150	80.7
	岡山医療センター	994	732	122	85.9
広島	国立大学法人 広島大学病院★	2528	1365	674	80.7
	県立広島病院	2796	1462	493	69.9
	広島赤十字・原爆病院	2543	1956	355	90.9
	呉医療センター	2854	1948	399	82.2
	独立行政法人国立病院機構東広島医療センター	1244	730	242	78.1
	福山市市民病院	2529	1197	613	71.6
	市立三次中央病院	1066	753	146	84.3
山口	山口県立総合医療センター	1211	967	155	92.7
	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター	1824	1266	220	81.5
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	1138	872	116	86.8
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	2242	1685	341	90.4
	山口大学医学部附属病院★	3181	1657	1010	83.8
徳島	徳島県立中央病院	955	636	155	82.8
	徳島大学病院★	2857	1568	1006	90.1
	徳島赤十字病院	1839	1155	378	83.4
香川	香川県立中央病院	2157	1446	621	95.8
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	2085	1503	399	91.2
	三豊総合病院	1969	1565	211	90.2
	高松赤十字病院	1866	1439	242	90.1
	国立大学法人 香川大学医学部附属病院★	2664	1297	646	72.9
愛媛	市立宇和島病院	1967	1398	277	85.2
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター★	6186	3085	1720	77.7
	住友別子病院	1172	751	123	74.6
	愛媛大学医学部附属病院	2387	1277	693	82.5
	愛媛県立中央病院	2708	2183	397	95.3
	松山赤十字病院	2441	1942	232	89.1
	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院	934	583	148	78.3
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院★	3412	1844	765	76.5
	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	1885	1089	751	97.6
福岡	久留米大学病院	4728	2911	1125	85.4
	公立八女総合病院	1206	903	167	88.7
	地方独立行政法人 大牟田市立病院	1171	751	183	79.8
	社会保険田川病院	1290	820	166	76.4
	飯塚病院	3701	2808	475	88.7
	福岡東医療センター	890	605	99	79.1
	北九州市立医療センター	4228	2310	1052	79.5
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター★	4005	2055	1298	83.7
	国立大学法人 九州大学病院★	6835	3066	1691	69.6
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	3481	2085	845	84.2
	福岡県済生会福岡総合病院	1950	1053	448	77.0

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
福岡	福岡大学病院	2873	1742	866	90.8
	聖マリア病院	2201	1640	90	78.6
	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院	3474	2090	640	78.6
	産業医科大学病院	3584	1846	873	75.9
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	2139	1261	402	77.7
	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院★	3269	1662	836	76.4
	唐津赤十字病院	1206	706	101	66.9
	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	1353	864	219	80.0
長崎	日本赤十字社長崎原爆病院	1825	1354	345	93.1
	佐世保市総合医療センター	3352	2122	768	86.2
	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	2738	1733	516	82.1
	国立大学法人 長崎大学病院★	3630	1822	1216	83.7
	長崎県島原病院	985	605	222	84.0
熊本	熊本大学医学部附属病院★	4938	2559	1152	75.2
	熊本市立熊本市民病院	2130	1463	375	86.3
	独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院	1321	863	255	84.6
	人吉医療センター	1057	585	176	72.0
	熊本赤十字病院	2665	1679	526	82.7
	国立病院機構 熊本医療センター	2640	1635	382	76.4
	済生会熊本病院	3478	1884	727	75.1
	荒尾市民病院	641	422	124	85.2
大分	大分県立病院	2761	1955	517	89.5
	大分赤十字病院	1299	898	264	89.5
	大分大学医学部附属病院★	2995	1427	1081	83.7
	独立行政法人国立病院機構別府医療センター	481	367	71	91.1
	大分県済生会日田病院	685	383	108	71.7
宮崎	宮崎県立宮崎病院	942	687	163	90.2
	国立病院機構 都城医療センター	865	463	237	80.9
	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院★	2027	1084	521	79.2
鹿児島	国立大学法人 鹿児島大学病院★	4005	1614	1180	69.8
	国立病院機構鹿児島医療センター	1374	635	356	72.1
	鹿児島県立薩南病院	180	100	50	83.3
	独立行政法人国立病院機構南九州病院	358	278	60	94.4
	県民健康プラザ 鹿屋医療センター	384	200	68	69.8
	公益財団法人昭和会今給黎総合病院	575	369	74	77.0
	出水郡医師会広域医療センター○	302	173	47	72.8
	社会医療法人 博愛会 相良病院	644	465	136	93.3
沖縄	地方独立行政法人 那覇市立病院	1436	836	252	75.8
	沖縄県立中部病院	1558	1011	191	77.2
	国立大学法人琉球大学医学部附属病院★	2402	935	826	73.3

（都道府県拠点病院★、国立がん研究センター★★、地域がん診療病院○、本調査時点）

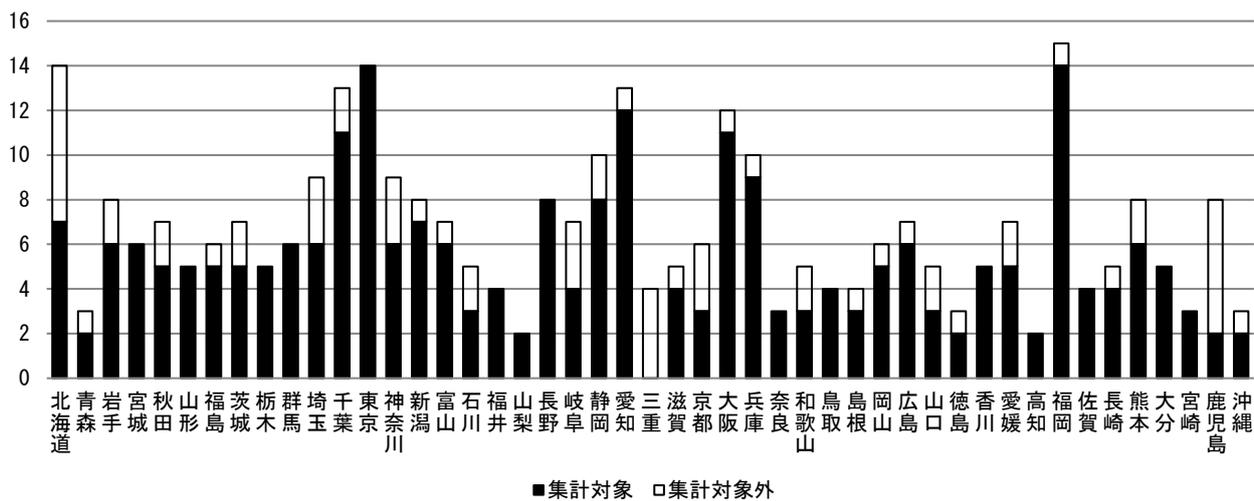


図 2-1 都道府県・施設別生存状況把握割合(315 施設)

表 2-3 都道府県別罹患数(2009年)に占める拠点病院登録割合(悪性新生物&lt;腫瘍&gt;のみ):診断時住所別

診断時 住所	2009年						(参考) 地域がん登録由来の2009年罹患数との比較				
	死亡数 (2009)	データ 収集施 設全登 録数 (315施 設)	集計対 象施設 全登録 数(251 施設)	概算罹患 数(千人 未満四捨 五入)	拠点 病院 登録 割合 <sup>1</sup> (%)	拠点 病院 登録 割合 <sup>2</sup> (%)	地域がん 登録罹患 数 (2009)	DCN (%)	罹患・死 亡比 (2008)	拠点病 院・登 録割合 <sup>1</sup> (%)	拠点病 院・登 録割合 <sup>2</sup> (%)
全体	344,105	436,435	360,111	750,000	58.2	48.0	480,488	(推定値)	2.18		
北海道	17,287	18,084	8,173	38,000	47.6	21.5	40,807	33.6	2.36	44.3	20.0
青森	4,516	3,563	2,464	10,000	35.6	24.6	8,818	31.9	1.95	40.4	27.9
岩手	4,269	7,282	6,177	9,000	80.9	68.6	9,228	18.5	2.16	78.9	66.9
宮城	6,240	8,984	8,927	14,000	64.2	63.8				-	-
秋田	4,008	6,346	4,995	9,000	70.5	55.5	9,190	6.2	2.29	69.1	54.4
山形	3,848	6,195	6,188	8,000	77.4	77.4	8,363	16.5	2.17	74.1	74.0
福島	6,043	8,005	7,317	13,000	61.6	56.3	10,633	20.7	1.76	75.3	68.8
茨城	8,074	10,666	8,225	18,000	59.3	45.7	16,908	19.8	2.09	63.1	48.6
栃木	5,257	9,042	9,024	11,000	82.2	82.0	11,679	18.8	2.22	77.4	77.3
群馬	5,516	5,554	5,528	11,000	50.5	50.3	11,881	18.3	2.15	46.7	46.5
埼玉	16,531	20,945	15,589	12,000	174.5	129.9				-	-
千葉	14,699	21,738	19,543	36,000	60.4	54.3	29,085	25.2	1.98	74.7	67.2
東京	31,268	29,726	29,057	68,000	43.7	42.7				-	-
神奈川	20,550	20,075	15,599	45,000	44.6	34.7	39,805	21.3	1.94	50.4	39.2
新潟	7,641	12,539	12,048	17,000	73.8	70.9	15,801	4.2	2.07	79.4	76.2
富山	3,349	6,786	6,331	7,000	96.9	90.4	7,966	17.6	2.38	85.2	79.5
石川	3,391	5,552	2,298	7,000	79.3	32.8	7,714	20.5	2.27	72.0	29.8
福井	2,344	4,790	4,717	5,000	95.8	94.3	5,481	11.9	2.34	87.4	86.1
山梨	2,327	3,616	3,598	5,000	72.3	72.0	5,720	25.1	2.46	63.2	62.9
長野	5,912	9,430	9,396	13,000	72.5	72.3				-	-
岐阜	5,713	9,647	4,983	12,000	80.4	41.5	11,590	29.5	2.03	83.2	43.0
静岡	9,769	16,470	13,462	21,000	78.4	64.1				-	-
愛知	16,888	20,721	18,668	37,000	56.0	50.5	36,821	18.9	2.18	56.3	50.7
三重	4,862	5,787	1,124	11,000	52.6	10.2				-	-
滋賀	3,358	4,547	3,278	7,000	65.0	46.8	7,085	19.4	2.11	64.2	46.3
京都	7,245	6,830	3,535	16,000	42.7	22.1	15,084	21.6	2.08	45.3	23.4
大阪	24,170	19,128	16,939	53,000	36.1	32.0				-	-
兵庫	15,589	15,992	13,721	34,000	47.0	40.4	31,906	35.7	2.05	50.1	43.0
奈良	3,745	4,642	4,470	8,000	58.0	55.9	9,284	37.1	2.48	50.0	48.1
和歌山	3,385	3,632	2,611	7,000	51.9	37.3	8,165	36.3	2.41	44.5	32.0
鳥取	1,929	2,697	2,684	4,000	67.4	67.1	4,475	13.4	2.32	60.3	60.0
島根	2,481	4,570	3,419	5,000	91.4	68.4	5,614	24.6	2.26	81.4	60.9
岡山	5,298	9,210	7,843	12,000	76.8	65.4	12,744	10.3	2.41	72.3	61.5
広島	7,749	9,194	8,630	17,000	54.1	50.8	19,586	8.1	2.53	46.9	44.1
山口	4,759	5,431	3,163	10,000	54.3	31.6	10,012	22.4	2.10	54.2	31.6
徳島	2,443	3,410	2,470	5,000	68.2	49.4	5,001	28.6	2.05	68.2	49.4
香川	2,852	5,644	5,624	6,000	94.1	93.7	7,122	26.1	2.50	79.2	79.0
愛媛	4,339	9,175	8,096	9,000	101.9	90.0	10,090	25.1	2.33	90.9	80.2
高知	2,561	2,910	2,889	6,000	48.5	48.2	5,328	30.2	2.08	54.6	54.2
福岡	14,312	21,180	19,340	31,000	68.3	62.4				-	-
佐賀	2,668	4,876	4,784	6,000	81.3	79.7	5,479	22.0	2.05	89.0	87.3
長崎	4,672	6,964	5,319	10,000	69.6	53.2	10,414	8.0	2.23	66.9	51.1
熊本	5,228	9,556	7,618	11,000	86.9	69.3	11,802	17.1	2.26	81.0	64.5
大分	3,532	4,747	4,729	8,000	59.3	59.1				-	-
宮崎	3,342	2,857	2,719	7,000	40.8	38.8				-	-
鹿児島	5,258	4,940	1,234	11,000	44.9	11.2	7,778	55.7	1.48	63.5	15.9
沖縄	2,643	2,760	1,565	6,000	46.0	26.1	6,029	27.1	2.28	45.8	26.0

拠点病院登録割合1は、データ収集施設の割合

拠点病院登録割合2は、集計対象施設の割合

\*データ収集施設及び集計対象全登録数の全体には、診断時住所が外国及び不詳を除く

DCN: 死亡情報で初めてがんとして把握された例

## 5. 既存生存率集計との比較

### (1) 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告との比較

最新の全国がん罹患モニタリング集計では、2006-8 年の全部位、男女合計について①「罹患者中死亡情報のみで登録された患者(DCO)の割合が 25%未満、あるいは「死亡情報で初めて把握された患者」(DCN)の割合が 30%未満、かつ②「罹患者数と人口動態統計によるがん死亡数との比」(IM 比)が 1.5 以上の二つの条件を満たす地域のうち、全国生存率集計の基準として、住民票照会実施で診断から 5 年度の生存状況把握割合が 5%未満あるいは全死亡情報との照合を実施している 21 地域(宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、神奈川、福井、山梨、愛知、滋賀、大阪、広島、長崎、千葉、新潟、鳥取、島根、岡山、愛媛、熊本)の資料が集計対象となっている。更に、それら地域のうち、①死亡情報のみで登録された患者、②多重がんのあるケースでは第 2 がん以降、③良悪性の別不詳、大腸の粘膜がんを含む上皮内がん、④年齢不詳及び 100 歳以上の例、⑤がん死亡情報からの遡り調査による登録を除外した解析対象 2 の結果について表 2-5-1 に示した。院内がん登録 2008-2009 年例の集計では、対象は前述のとおり、2008 年または 2009 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、かつ年齢が 0-99 歳、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患を含むものとする。生存率は、全体と進展度別に算出した。なお、両集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等については考慮されていない。

進展度が領域においては、若干院内がん登録集計対象者の相対生存率が高い傾向が認められたが、その他は大きな差は認められなかった。

### (2) 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設(2007-2009 年)の相対生存率との比較

全がん協加盟施設の生存率共同調査では、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設 32 施設における 2007-2009 年に初回治療を行った症例を対象とし、臨床病期判明率 60%以上、追跡率(生存状況把握割合)が 90%以上の施設のデータを使用し、症例区分 2(自施設診断・自施設治療)、症例区分 3(他施設診断・自施設治療)例のうち、5 歳未満の小児がん及び 95 歳以上の高齢者、良性腫瘍、上皮内がん、臨床病期ステージ 0、転移性腫瘍を除く例について生存率を公表している。一方で、院内がん登録 2008-2009 年生存率集計の結果としては、前述のとおり、2008 年または 2009 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、年齢が 0-99 歳となっており、集計対象が若干異なっている点に留意して結果を見ていただきたい。

また、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録 2008-2009 年集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等についても考慮されていない。

### 参考資料

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター. 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告. 2016 年
- 2) 全がん協加盟がん専門診療施設の診断治療症例について. 5 年生存率、10 年生存率データ更新、グラフを描写する生存率解析システム KapWeb などにて公開. プレスリリース資料. 2018 年

表 2-5-1 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告の生存率との比較:臨床進展度(進行度)別

		地域がん登録 (2006-2008)			院内がん登録 (2008-09)		
		対象数	(%)	相対生存率	対象数	(%)	相対生存率
全がん	限局	258,046	40.0	90.4	243,447	48.5	89.6
	領域	152,806	23.7	55.1	133,919	26.7	58.7
	遠隔	104,185	16.2	13.6	86,379	17.2	17.5
	全体	644,407	100.0	62.1	501,569	100.0	65.8
胃	限局	52,030	47.9	95.9	45,611	60.5	95.2
	領域	23,571	21.7	50.0	15,342	20.3	56.3
	遠隔	17,770	16.3	5.7	12,812	17.0	7.3
	全体	108,706	100.0	64.6	75,404	100.0	71.1
大腸	限局	41,392	40.3	96.6	28,773	47.5	94.2
	領域	28,190	27.4	72.1	18,883	31.1	76.4
	遠隔	17,102	16.6	15.8	11,807	19.5	18.7
	全体	102,764	100.0	71.1	60,623	100.0	72.9
肝	限局	18,174	52.1	45.8	16,855	68.2	50.9
	領域	5,148	14.8	13.7	4,778	19.3	17.0
	遠隔	2,898	8.3	3.5	2,004	8.1	3.1
	全体	34,891	100.0	32.6	24,725	100.0	39.6
肺	限局	18,830	24.8	80.6	21,576	34.3	81.9
	領域	20,235	26.7	26.7	18,026	28.7	31.6
	遠隔	25,309	33.4	4.9	21,522	34.2	5.9
	全体	75,846	100.0	31.9	62,884	100.0	40.0
女性乳房	限局	32,614	52.7	98.9	27,501	62.0	98.9
	領域	17,310	27.9	88.4	13,904	31.3	90.2
	遠隔	2,811	4.5	33.7	2,457	5.5	40.3
	全体	61,622	100.0	91.1	44,372	100.0	92.7
子宮頸部	限局	4,373	44.4	93.4	4,288	45.9	94.5
	領域	3,332	33.8	62.6	4,001	42.8	67.1
	遠隔	732	7.4	17.8	830	8.9	22.1
	全体	1,382	100.0	73.4	9,340	100.0	75.6
子宮体部	限局	5,908	56.7	94.7	6,147	62.5	95.0
	領域	2,258	21.7	71.2	2,650	26.9	74.4
	遠隔	781	7.5	20.1	846	8.6	23.0
	全体	10,425	100.0	81.1	9,839	100.0	82.5
前立腺	限局	25,956	52.8	100.0	25,264	67.1	100.0
	領域	6,866	14.0	97.7	7,027	18.7	99.5
	遠隔	5,078	10.3	49.1	4,172	11.1	53.4
	全体	49,153	100.0	97.5	37,630	100.0	98.4

全体には、臨床進展度不詳・不明を含む

表 2-5-2 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録(2008-2009年)の生存率

		全国がんセンター協議会加盟施設 (2007-2009年)		院内がん登録 (2008-09年)	
		対象数	相対生存率	対象数	相対生存率
食道	I期	1,290	86.3	4,940	79.7
	II期	1,112	56.1	3,277	49.7
	III期	1,658	29.3	4,271	26.4
	IV期	1,523	12.4	3,714	11.4
	全体	5,675	43.3	16,755	43.7
胃	I期	13,888	97.4	47,084	94.9
	II期	1,667	65.0	5,839	68.2
	III期	2,077	47.1	5,879	43.4
	IV期	3,782	7.2	14,806	9.6
	全体	22,000	74.5	75,404	71.1
大腸	I期	3,763	97.6	15,214	95.5
	II期	3,073	90.0	16,088	88.4
	III期	4,084	84.2	15,628	76.7
	IV期	2,968	20.2	11,789	18.5
	全体	14,551	76.0	60,623	72.9
肝	I期	1,763	59.6	9,366	59.8
	II期	1,191	35.6	7,244	41.7
	III期	1,147	14.0	5,359	16.1
	IV期	552	1.9	2,014	3.9
	全体	4,740	35.3	24,725	39.6
肺、気管	I期	7,655	81.8	22,184	81.3
	II期	1,448	48.4	4,266	47.9
	III期	4,644	21.2	16,324	21.7
	IV期	5,824	4.5	18,738	4.8
	全体	19,997	42.7	62,884	40.0
女性乳房	I期	7,289	100.0	18,895	100.0
	II期	7,020	96.0	17,559	95.7
	III期	1,679	80.8	5,198	80.6
	IV期	779	37.1	2,257	37.8
	全体	16,865	93.5	44,372	92.7
膵臓	I期	283	41.9	963	43.2
	II期	970	18.3	3,384	20.8
	III期	846	5.9	3,008	6.5
	IV期	2,289	1.2	7,574	1.8
	全体	4,489	9.3	15,499	10.0
子宮頸部	I期	1,698	92.3	4,140	95.2
	II期	694	77.8	1,631	80.8
	III期	751	62.8	2,173	61.5
	IV期	479	26.6	1,137	25.3
	全体	3,667	74.8	9,340	75.6
子宮体部 (子宮内膜)	I期	2,403	95.9	5,617	96.8
	II期	232	87.3	763	90.0
	III期	408	70.8	1,670	75.4
	IV期	226	17.5	726	23.5
	全体	3,485	85.6	9,839	82.5
前立腺	I期	163	100.0	730	100.0
	II期	6,490	100.0	24,370	100.0
	III期	1,213	100.0	5,880	100.0
	IV期	1,209	63.7	5,692	62.0
	全体	9,151	100.0	37,630	98.4
膀胱	I期	885	86.5	5,712	89.1
	II期	330	72.7	1,845	64.5
	III期	262	55.4	1,078	48.1
	IV期	174	17.0	1,157	19.2
	全体	1,737	71.3	10,244	70.9

全国がんセンター協議会加盟施設 32 施設

### Ⅲ 2008-2009 年 5 年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>

#### 1. 全がん

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	662, 879	251	548, 833	501, 897	501, 795	226	501, 569

#### (0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録 2008-2009 年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

#### (1) 生存状況把握割合

対象者は 501,569 例で、その内 5 年以内に死亡していた者は 204,569 例、打ち切りが 19,320 例であった。全体として、生存状況把握割合は 96.1%であった。

#### (2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表 3-1-1 に示す。男性が 58.1%、女性が 41.9%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳代、70 歳代で全体の半数以上を占めた。約 60%の対象者に観血的治療が実施されており、そのうちの約 86%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺、大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	291,405	100.0	210,164	100.0	501,569	100.0
年齢						
0-14 歳	1,097	0.4	892	0.4	1,989	0.4
15-39 歳	6,035	2.1	11,742	5.6	17,777	3.5
40 歳代	9,836	3.4	21,082	10.0	30,918	6.2
50 歳代	38,096	13.1	37,389	17.8	75,485	15.0
60 歳代	88,922	30.5	51,514	24.5	140,436	28.0
70 歳代	104,691	35.9	54,372	25.9	159,063	31.7
80 歳以上	42,728	14.7	33,173	15.8	75,901	15.1
観血的治療						
有	157,696	54.1	144,568	68.8	302,264	60.3
原発巣・治癒切除	134,931	46.3	124,274	59.1	259,205	51.7
原発巣・非治癒切除	14,083	4.8	11,734	5.6	25,817	5.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	8,682	3.0	8,560	4.1	17,242	3.4
無	133,709	45.9	65,596	31.2	199,305	39.7
発見経緯						
がん検診	19,889	6.8	19,082	9.1	38,971	7.8
健康診断・人間ドック	26,973	9.3	13,486	6.4	40,459	8.1
他疾患経過観察中	87,245	29.9	46,164	22.0	133,409	26.6
その他・不明	157,298	54.0	131,432	62.5	288,730	57.6
部位						
口腔咽頭	10,987	3.8	4,290	2.0	15,277	3.0
食道	14,378	4.9	2,377	1.1	16,755	3.3
胃	53,143	18.2	22,261	10.6	75,404	15.0
結腸	21,138	7.3	17,324	8.2	38,462	7.7
直腸	14,386	4.9	7,775	3.7	22,161	4.4
大腸（再掲）	35,524	12.2	25,099	11.9	60,623	12.1
肝臓	16,967	5.8	7,758	3.7	24,725	4.9
胆嚢胆管	5,723	2.0	4,870	2.3	10,593	2.1
膵臓	8,708	3.0	6,791	3.2	15,499	3.1
喉頭	4,623	1.6	312	0.1	4,935	1.0
肺	44,022	15.1	18,862	9.0	62,884	12.5
骨軟部	1,508	0.5	1,180	0.6	2,688	0.5
皮膚	5,913	2.0	5,901	2.8	11,814	2.4
乳房	245	0.1	44,372	21.1	44,617	8.9
子宮頸部	-		9,340	4.4	9,340	1.9
子宮体部	-		9,839	4.7	9,839	2.0
子宮	-		58	0.0	58	0.0
卵巣	-		6,857	3.3	6,857	1.4
前立腺	37,630	12.9	-		37,630	7.5
膀胱	7,960	2.7	2,284	1.1	10,244	2.0
腎尿路	9,495	3.3	4,352	2.1	13,847	2.8
脳神経	4,917	1.7	6,177	2.9	11,094	2.2
甲状腺	2,341	0.8	6,560	3.1	8,901	1.8
悪性リンパ腫	10,118	3.5	8,491	4.0	18,609	3.7
多発性骨髄腫	2,126	0.7	1,772	0.8	3,898	0.8
白血病	4,493	1.5	3,111	1.5	7,604	1.5
その他の血液	2,783	1.0	1,751	0.8	4,534	0.9
その他	7,801	2.7	5,499	2.6	13,300	2.7

## (3)5年生存率

表 3-1-2 に、2008-2009 年例における実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなるものが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 5 年生存率

	生存率											
	男性			女性			全体					
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間			
全体	53.2	62.1	61.9	62.4	65.9	70.8	70.6	71.0	58.5	65.8	65.7	66.0
年齢												
0-14 歳	81.8	81.8	79.4	84.0	78.7	78.7	75.9	81.3	80.4	80.5	78.6	82.1
15-39 歳	76.3	76.6	75.5	77.7	84.6	84.8	84.1	85.5	81.8	82.1	81.5	82.6
40 歳代	67.0	67.8	66.8	68.8	84.5	85.0	84.5	85.5	78.9	79.6	79.1	80.1
50 歳代	61.5	63.6	63.1	64.1	76.9	78.0	77.6	78.4	69.2	70.8	70.4	71.1
60 歳代	59.0	63.5	63.1	63.8	70.4	72.5	72.1	72.9	63.2	66.8	66.5	67.1
70 歳代	50.9	61.7	61.4	62.1	58.5	63.9	63.4	64.4	53.5	62.5	62.2	62.8
80 歳以上	31.8	54.1	53.4	54.9	39.1	55.3	54.6	56.1	34.9	54.7	54.1	55.2
観血的治療												
有	69.6	80.5	80.2	80.8	80.6	86.1	85.9	86.4	74.9	83.2	83.1	83.4
原発巣・治癒切除	73.4	84.9	84.6	85.2	84.0	89.8	89.6	90.1	78.5	87.3	87.1	87.5
原発巣・非治癒切除	38.4	44.0	43.0	44.9	47.9	51.1	50.2	52.1	42.7	47.3	46.6	48.0
の	61.4	70.7	69.5	71.9	75.2	80.0	79.0	80.9	68.2	75.4	74.6	76.2
別不詳												
無	33.6	40.0	39.7	40.3	32.8	36.0	35.6	36.4	33.3	38.7	38.4	38.9

## 2. 胃(C16)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2008-2009	83,730	251	75,451	75,441	75,439	35	75,404

## (1) 生存状況把握割合

集計対象者は、75,404例で、5年以内に死亡していた者は28,301例、打ち切りが3,144例で、生存状況把握割合は、全体で95.8%であった。

## (2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表3-2-1に示す。性別にみると、男性が7割以上を占めた。診断時の年齢は、70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳

代・70歳代で全体の約6割を占めた。UICC TNM分類総合ステージを見ると、I期が約6割、次いでIV期が2割を占めた。約8割において観血的治療が実施されており、そのうち約9割が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約3割であった。男女の年齢構成割合、UICC TNM分類総合ステージの分布に大きな差異はなく、男女ともに観血的治療実施割合は80%を超えていた。

表3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	53,143	100.0	22,261	100.0	75,404	100.0
年齢						
0-14歳	-	0.0	-	0.0	-	0.0
15-39歳	478	0.9	527	2.4	1,005	1.3
40歳代	1,485	2.8	1,052	4.7	2,537	3.4
50歳代	7,180	13.5	2,994	13.4	10,174	13.5
60歳代	16,410	30.9	5,401	24.3	21,811	28.9
70歳代	19,692	37.1	7,551	33.9	27,243	36.1
80歳以上	7,895	14.9	4,734	21.3	12,629	16.7
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I期	33,634	63.3	13,450	60.4	47,084	62.4
II期	4,122	7.8	1,717	7.7	5,839	7.7
III期	4,006	7.5	1,873	8.4	5,879	7.8
IV期	10,250	19.3	4,556	20.5	14,806	19.6
不詳	768	1.4	380	1.7	1,148	1.5
空欄	363	0.7	285	1.3	648	0.9
観血的治療						
有	42,990	80.9	17,913	80.5	60,903	80.8
原発巣・治癒切除	38,950	73.3	16,177	72.7	55,127	73.1
原発巣・非治癒切除	2,900	5.5	1,277	5.7	4,177	5.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	1,140	2.1	459	2.1	1,599	2.1
無	10,153	19.1	4,348	19.5	14,501	19.2
発見経緯						
がん検診	5,509	10.4	2,240	10.1	7,749	10.3
健康診断・人間ドック	7,231	13.6	2,255	10.1	9,486	12.6
他疾患経過観察中	15,745	29.6	5,598	25.1	21,343	28.3
その他・不明	24,658	46.4	12,168	54.7	36,826	48.8

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3)5年生存率

男女別に見た5年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向があり、男性では70歳以上で相対生存率と実測生存率との差が10%を超えている。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で85.1%であった。

表 3-2-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	60.8	71.4	70.9	71.9	63.8	70.3	69.6	71.0	61.7	71.1	70.7	71.5
年齢												
15-39歳	60.6	60.9	56.3	65.2	61.7	61.9	57.5	66.0	61.2	61.4	58.3	64.4
40歳代	73.0	74.0	71.6	76.2	69.0	69.5	66.5	72.2	71.4	72.1	70.3	73.9
50歳代	72.1	74.6	73.5	75.7	71.0	72.1	70.4	73.7	71.8	73.8	72.9	74.7
60歳代	68.2	73.4	72.6	74.1	71.2	73.4	72.1	74.6	68.9	73.4	72.7	74.0
70歳代	58.2	70.6	69.8	71.4	65.4	71.7	70.4	72.8	60.2	70.9	70.2	71.6
80歳以上	39.0	65.9	64.0	67.7	46.8	64.4	62.3	66.4	41.9	65.3	63.9	66.7
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	80.5	94.7	94.2	95.2	86.4	95.3	94.6	95.9	82.2	94.9	94.5	95.3
II期	58.2	68.2	66.4	69.9	61.8	68.2	65.6	70.7	59.3	68.2	66.7	69.6
III期	37.0	42.9	41.1	44.6	41.0	44.7	42.2	47.1	38.3	43.4	42.0	44.9
IV期	8.4	9.6	9.0	10.3	8.8	9.5	8.6	10.4	8.5	9.6	9.1	10.1
不詳	16.5	21.0	17.7	24.6	15.9	20.1	15.5	25.3	16.3	20.7	18.0	23.7
観血的治療												
有	73.0	85.4	84.9	85.9	77.0	84.5	83.8	85.2	74.2	85.1	84.7	85.5
原発巣・治癒切除	76.8	89.8	89.3	90.3	81.6	89.4	88.8	90.1	78.2	89.7	89.3	90.1
原発巣・非治癒切除	26.6	31.5	29.6	33.5	24.3	27.1	24.5	29.8	25.9	30.1	28.6	31.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	58.4	69.1	65.6	72.4	60.7	67.6	62.4	72.4	59.1	68.6	65.8	71.4
無	7.8	9.6	9.0	10.3	7.7	8.9	8.0	9.9	7.8	9.4	8.9	10.0

\*癌腫のみ対象

## 3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2008-2009	88,295	251	77,319	60,673	60,656	33	60,623

## (1) 生存状況把握割合

集計対象 60,623 例のうち、5 年以内に死亡していた者は 21,488 例、打ち切りが 2,353 例で、全体として生存状況把握割合は 96.1%であった。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 6 割を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代

が多くなっていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに約 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者が観血的治療を受けており、そのうちの約 87%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 23%、がん検診が約 10%、健康診断・人間ドックが 7~9%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が約 6 割を占め、性別にみると男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	35,524	100.0	25,099	100.0	60,623	100.0
年齢						
0-14歳	-	0.0	-	0.0	-	0.0
15-39歳	516	1.5	470	1.9	986	1.6
40歳代	1,411	4.0	1,196	4.8	2,607	4.3
50歳代	5,362	15.1	3,657	14.6	9,019	14.9
60歳代	11,082	31.2	6,410	25.5	17,492	28.9
70歳代	11,949	33.6	7,801	31.1	19,750	32.6
80歳以上	5,203	14.6	5,564	22.2	10,767	17.8
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	9,447	26.6	5,767	23.0	15,214	25.1
II 期	9,457	26.6	6,631	26.4	16,088	26.5
III 期	8,747	24.6	6,881	27.4	15,628	25.8
IV 期	6,757	19.0	5,032	20.0	11,789	19.4
不詳	518	1.5	353	1.4	871	1.4
空欄	598	1.7	435	1.7	1,033	1.7
観血的治療						
有	31,404	88.4	22,141	88.2	53,545	88.3
原発巣・治癒切除	27,452	77.3	19,134	76.2	46,586	76.8
原発巣・非治癒切除	2,879	8.1	2,241	8.9	5,120	8.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	1,073	3.0	766	3.1	1,839	3.0
無	4,120	11.6	2,958	11.8	7,078	11.7
発見経緯						
がん検診	3,474	9.8	2,512	10.0	5,986	9.9
健康診断・人間ドック	3,295	9.3	1,794	7.1	5,089	8.4
他疾患経過観察中	8,610	24.2	5,333	21.2	13,943	23.0
その他・不明	20,145	56.7	15,460	61.6	35,605	58.7
部位						
結腸	21,138	59.5	17,324	69.0	38,462	63.4
直腸	14,386	40.5	7,775	31.0	22,161	36.6

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3)5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-3-2に示す。5年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約72~73%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少ないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約94~97%、II期では約88%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率は80%を超えており、原発巣・治癒切除例においては約87%であった。男女とも、結腸、直腸間での相対生存率の差は認められなかった。

表3-3-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	62.6	73.1	72.5	73.7	65.7	72.7	72.1	73.4	63.9	72.9	72.5	73.4
年齢												
15-39歳	73.8	74.2	70.1	77.8	71.2	71.4	67.0	75.4	72.6	72.9	69.9	75.6
40歳代	74.0	74.9	72.5	77.2	72.0	72.5	69.9	75.0	73.1	73.8	72.0	75.5
50歳代	71.5	74.0	72.7	75.2	73.7	74.8	73.3	76.2	72.4	74.3	73.4	75.3
60歳代	69.5	74.7	73.8	75.6	73.6	75.9	74.7	77.0	71.0	75.2	74.4	75.9
70歳代	60.8	73.6	72.5	74.7	67.1	73.4	72.3	74.6	63.2	73.5	72.8	74.3
80歳以上	38.3	66.2	63.8	68.5	47.0	66.8	64.9	68.7	42.8	66.6	65.1	68.1
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	81.2	94.8	93.8	95.7	87.9	96.8	95.8	97.7	83.8	95.5	94.8	96.2
II期	74.1	88.2	87.1	89.2	78.4	88.7	87.5	89.8	75.8	88.4	87.6	89.2
III期	65.2	75.6	74.5	76.8	70.8	78.0	76.8	79.2	67.6	76.7	75.9	77.5
IV期	16.8	18.9	17.9	20.0	16.7	17.9	16.8	19.1	16.7	18.5	17.8	19.3
不詳	25.2	31.7	27.0	36.6	23.0	27.0	21.9	32.5	24.3	29.8	26.2	33.4
観血的治療												
有	69.3	80.8	80.2	81.4	73.0	80.7	80.0	81.3	70.8	80.8	80.3	81.2
原発巣・治癒切除	74.3	86.7	86.0	87.3	78.8	87.1	86.4	87.7	76.1	86.8	86.4	87.3
原発巣・非治癒切除	25.4	29.3	27.4	31.2	26.7	29.1	27.1	31.2	26.0	29.2	27.9	30.6
原発巣・治癒/非治癒	57.3	67.4	63.8	70.9	62.9	69.6	65.6	73.3	59.6	68.4	65.7	70.9
無	10.2	12.0	10.9	13.2	9.0	10.3	9.1	11.6	9.7	11.3	10.5	12.2
部位												
結腸	61.9	73.6	72.9	74.4	64.7	72.3	71.5	73.1	63.2	73.1	72.5	73.6
直腸	63.6	72.3	71.4	73.2	67.8	73.6	72.5	74.7	65.1	72.8	72.1	73.5

\*癌腫のみ対象

## 4. 肝(C22)

	集計対象施設 全登録数	集計対象施 設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	31,599	251	24,732	24,732	24,731	-	24,725

## (1) 生存状況把握割合

対象者は、24,725 例で、そのうち 5 年以内に死亡していた者は 15,728 例、打ち切りが 966 例であった。全体として、生存状況把握割合は 96.1%であった。

性が 68%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 38%、女性では約 47%を占めた。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 38%、II 期が約 29%、III 期が約 22%となっていた。約 25%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 61%を占めた。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4-1 に示す。性別にみると、男

表 3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	16,967	100.0	7,758	100.0	24,725	100.0
年齢						
0-14 歳	23	0.1	27	0.3	50	0.2
15-39 歳	122	0.7	57	0.7	179	0.7
40 歳代	506	3.0	117	1.5	623	2.5
50 歳代	2,485	14.6	552	7.1	3,037	12.3
60 歳代	5,311	31.3	1,874	24.2	7,185	29.1
70 歳代	6,510	38.4	3,615	46.6	10,125	41.0
80 歳以上	2,010	11.8	1,516	19.5	3,526	14.3
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	6,060	35.7	3,306	42.6	9,366	37.9
II 期	4,956	29.2	2,288	29.5	7,244	29.3
III 期	4,049	23.9	1,310	16.9	5,359	21.7
IV 期	1,431	8.4	583	7.5	2,014	8.1
不詳	420	2.5	231	3.0	651	2.6
空欄	51	0.3	40	0.5	91	0.4
取扱い規約治療前ステージ*						
I 期	3,330	19.6	2,089	26.9	5,419	21.9
II 期	5,662	33.4	2,644	34.1	8,306	33.6
III 期	3,919	23.1	1,486	19.2	5,405	21.9
IV 期	3,325	19.6	1,190	15.3	4,515	18.3
不詳	607	3.6	289	3.7	896	3.6
空欄	118	0.7	56	0.7	174	0.7
観血的治療						
有	4,559	26.9	1,604	20.7	6,163	24.9
原発巣・治癒切除	4,012	23.6	1,414	18.2	5,426	21.9
原発巣・非治癒切除	290	1.7	112	1.4	402	1.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	257	1.5	78	1.0	335	1.4
無	12,408	73.1	6,154	79.3	18,562	75.1
発見経緯						
がん検診	132	0.8	52	0.7	184	0.7
健康診断・人間ドック	711	4.2	159	2.0	870	3.5
他疾患経過観察中	10,066	59.3	4,983	64.2	15,049	60.9
その他・不明	6,058	35.7	2,564	33.0	8,622	34.9

\* 癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を含むが表には提示せず

## (3)5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-4-2に示す。全体として、相対生存率は39.6%で、男性が40.1%、女性が38.7%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で59.8%、男性が62.9%、女性が54.4%であるが、II期になると男女ともに相対生存率は50%を下回った。観血的治療を受けたものの割合は4分の1以下であるが、観血的治療を受けた者の相対生存率は64.3%であった。

表3-4-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	34.5	40.1	39.3	41.0	35.2	38.7	37.5	39.9	34.7	39.6	39.0	40.3
年齢												
0-14歳	-	-			-	-			85.8	85.9	72.6	93.1
15-39歳	36.8	37.0	28.2	45.7	47.3	47.5	34.1	59.7	40.3	40.5	33.1	47.7
40歳代	40.4	40.9	36.5	45.3	46.5	46.8	37.3	55.7	41.5	42.0	38.0	46.0
50歳代	37.5	38.8	36.8	40.8	43.8	44.5	40.1	48.7	38.7	39.8	38.0	41.6
60歳代	39.2	42.1	40.7	43.6	42.9	44.3	41.9	46.6	40.2	42.7	41.5	43.9
70歳代	32.9	39.9	38.5	41.3	35.7	39.1	37.4	40.9	33.9	39.6	38.5	40.7
80歳以上	21.3	35.1	32.1	38.2	18.6	24.6	22.0	27.3	20.1	30.2	28.2	32.3
UICC TNM 総合ステージ												
I期	53.9	62.9	61.4	64.4	49.4	54.4	52.5	56.3	52.3	59.8	58.6	61.0
II期	37.0	42.8	41.2	44.4	35.9	39.4	37.2	41.6	36.6	41.7	40.4	43.0
III期	14.3	16.6	15.3	17.9	13.1	14.4	12.4	16.5	14.0	16.1	15.0	17.2
IV期	3.4	3.9	2.9	5.2	3.6	3.9	2.4	5.8	3.4	3.9	3.0	5.0
不詳	18.4	21.8	17.5	26.5	18.2	20.5	15.0	26.6	18.3	21.3	17.8	25.0
取扱い規約治療前ステージ												
I期	54.7	63.2	61.2	65.2	53.8	58.8	56.4	61.1	54.4	61.5	59.9	63.0
II期	45.9	53.6	52.0	55.1	40.9	45.1	43.0	47.2	44.3	50.8	49.6	52.1
III期	25.3	29.4	27.8	31.0	23.5	26.0	23.6	28.5	24.8	28.5	27.1	29.8
IV期	6.4	7.4	6.5	8.4	5.6	6.1	4.7	7.7	6.2	7.1	6.3	7.9
不詳	28.4	33.5	29.2	37.9	23.0	25.5	20.1	31.2	26.7	30.8	27.4	34.3
観血的治療												
有	56.8	64.6	62.9	66.2	59.2	63.4	60.7	66.0	57.4	64.3	62.9	65.7
原発巣・治癒切除	59.4	67.6	65.8	69.3	61.8	66.3	63.5	69.0	60.0	67.2	65.7	68.7
原発巣・非治癒切	24.5	27.8	22.3	33.7	25.3	27.0	18.7	36.1	24.7	27.6	22.9	32.5
除												
原発巣・治癒/非治癒の	52.6	59.0	51.9	65.6	59.3	63.2	50.5	73.9	54.1	60.0	53.8	65.7
別不詳												
無	26.2	30.8	29.9	31.7	28.8	32.0	30.7	33.3	27.1	31.2	30.5	32.0

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

取扱い規約治療前ステージが0期の者が含まれる

## 5. 肺(C33-34)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	76,614	251	62,977	62,916	62,911	27	62,884

## (1) 生存状況把握割合

対象者は、62,884 例で、そのうち 5 年以内に死亡していた者は 39,925 例、打ち切りが 2,018 例で、全体として生存状況把握割合は 96.8%であった。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 70%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約

35%、次いでIV期が約 30%、III期が約 26%であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 41%であった。観血的治療有の者の内、約 91%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯をみると、健康診断・人間ドックが約 14%、がん検診が約 8%であった。組織形態でみると、小細胞癌が 9.3%含まれていた。

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	44,022	100.0	18,862	100.0	62,884	100.0
年齢						
0-14 歳	0	0.0	-	0.0	-	0.0
15-39 歳	270	0.6	214	1.1	484	0.8
40 歳代	1,086	2.5	656	3.5	1,742	2.8
50 歳代	5,008	11.4	2,660	14.1	7,668	12.2
60 歳代	13,459	30.6	5,690	30.2	19,149	30.5
70 歳代	17,094	38.8	6,652	35.3	23,746	37.8
80 歳以上	7,105	16.1	2,987	15.8	10,092	16.0
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	13,470	30.6	8,714	46.2	22,184	35.3
II 期	3,351	7.6	915	4.9	4,266	6.8
III 期	12,712	28.9	3,612	19.1	16,324	26.0
IV 期	13,516	30.7	5,222	27.7	18,738	29.8
不詳	781	1.8	281	1.5	1,062	1.7
空欄	192	0.4	118	0.6	310	0.5
観血的治療						
有	16,345	37.1	10,025	53.1	26,370	41.9
原発巣・治癒切除	14,717	33.4	9,257	49.1	23,974	38.1
原発巣・非治癒切除	858	1.9	331	1.8	1,189	1.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	770	1.7	437	2.3	1,207	1.9
無	27,677	62.9	8,837	46.9	36,514	58.1
発見経緯						
がん検診	2,947	6.7	1,898	10.1	4,845	7.7
健康診断・人間ドック	5,658	12.9	3,051	16.2	8,709	13.8
他疾患経過観察中	14,983	34.0	6,216	33.0	21,199	33.7
その他・不明	20,434	46.4	7,697	40.8	28,131	44.7
組織形態						
小細胞癌	4,907	11.1	949	5.0	5,856	9.3
非小細胞癌	39,115	88.9	17,913	95.0	57,028	90.7

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3)5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-5-2に示す。全体での5年相対生存率は、40.0%、男性が33.4%、女性が54.9%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM分類総合ステージのⅠ期の割合が多く、年齢分布をみると70歳代が少ないものの、UICC TNM分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でⅠ期が81.3%であるのに対し、Ⅱ期以降では50%以下と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で40%程度であるが、相対生存率は77.9%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表 3-5-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	28.5	33.4	32.9	33.9	50.9	54.9	54.1	55.7	35.2	40.0	39.6	40.4
年齢												
15-39歳	40.1	40.3	34.2	46.2	50.7	50.9	43.9	57.4	44.9	45.0	40.5	49.5
40歳代	39.5	40.0	37.0	43.0	55.3	55.7	51.7	59.5	45.5	45.9	43.5	48.3
50歳代	38.9	40.2	38.8	41.7	59.4	60.3	58.4	62.2	46.1	47.3	46.1	48.4
60歳代	33.7	36.3	35.4	37.2	58.0	59.7	58.4	61.1	40.9	43.3	42.6	44.1
70歳代	26.1	31.8	31.0	32.6	50.2	54.8	53.5	56.1	32.9	38.4	37.7	39.1
80歳以上	14.5	23.9	22.6	25.3	29.8	39.8	37.6	42.1	19.0	28.9	27.8	30.1
UICC TNM 総合ステージ*												
Ⅰ期	62.1	73.9	72.9	74.8	85.6	92.3	91.5	93.1	71.3	81.3	80.7	82.0
Ⅱ期	38.8	45.2	43.3	47.1	53.3	57.6	54.0	61.1	41.9	47.9	46.2	49.6
Ⅲ期	16.9	19.4	18.6	20.1	27.8	29.8	28.2	31.4	19.3	21.7	21.0	22.4
Ⅳ期	2.9	3.4	3.0	3.7	8.0	8.5	7.7	9.4	4.4	4.8	4.5	5.2
不詳	8.1	10.9	8.4	13.8	13.9	16.5	11.8	22.0	9.6	12.4	10.1	14.9
観血的治療												
有	61.7	71.3	70.5	72.2	82.5	88.1	87.3	88.9	69.6	77.9	77.2	78.5
原発巣・治癒切除	63.8	73.8	72.9	74.7	84.1	89.8	89.0	90.6	71.7	80.1	79.5	80.8
原発巣・非治癒切除	31.4	35.9	32.4	39.5	49.6	53.3	47.3	59.1	36.5	40.9	37.8	44.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	55.3	63.6	59.5	67.6	73.4	78.1	73.4	82.2	61.9	69.0	65.8	72.0
無	8.2	9.9	9.5	10.3	13.8	15.3	14.5	16.1	9.5	11.2	10.8	11.6
組織形態												
小細胞癌	10.8	12.3	11.4	13.4	14.5	15.4	13.0	17.9	11.4	12.8	11.9	13.8
非小細胞癌	30.7	36.0	35.5	36.6	52.8	56.9	56.1	57.7	37.6	42.8	42.3	43.2

\*癌腫のみ対象

## 6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	78,069	251	50,457	44,384	44,383	11	44,372

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、44,372 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 4,977 例、打ち切りが 1,297 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 97.1%であった。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、60 歳代が 25.2%と最も多く、次いで 50 歳代が 25.1%、40 歳代が 21.1%であった。また、35 歳未満は、1,048 例であった(約 2.4%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く 42.6%、次いで II 期が 39.6%であった。観血的治療の実施割合は、90%以上であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診、健康診断・人間ドックがやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	対象数	(%)
全体	44,372	100.0
年齢		
15-39 歳	3,069	6.9
40 歳代	9,349	21.1
50 歳代	11,117	25.1
60 歳代	11,163	25.2
70 歳代	6,663	15.0
80 歳以上	6,011	13.5
35 歳未満 (再掲)	1,048	2.4
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	18,895	42.6
II 期	17,559	39.6
III 期	5,198	11.7
IV 期	2,257	5.1
不詳	335	0.8
空欄	128	0.3
観血的治療		
有	40,148	90.5
原発巣・治癒切除	36,028	81.2
原発巣・非治癒切除	1,801	4.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	2,319	5.2
無	4,224	9.5
発見経緯		
がん検診	8,928	20.1
健康診断・人間ドック	2,467	5.6
他疾患経過観察中	4,636	10.4
その他・不明	28,341	63.9

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5 年生存率

2008-2009 年診断例の 5 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は 92.7%であり、どの年代においても相対生存率は 90%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 95%以上であるが、IV 期では 37.8%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者では、治癒切除・非治癒切除に関わらず相対生存率は約 90%程度であった。

表 3-6-2 属性別 5 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	88.6	92.7	92.4	93.0
年齢				
15-39 歳	90.7	91.0	89.9	92.0
40 歳代	93.7	94.3	93.8	94.8
50 歳代	90.2	91.4	90.8	92.0
60 歳代	90.2	92.9	92.3	93.4
70 歳代	84.9	92.5	91.5	93.4
80 歳以上	66.9	94.3	91.9	96.7
35 歳未満 (再掲)	89.8	90.0	88.0	91.7
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	95.8	100.0	99.7	100.0
II 期	91.6	95.7	95.3	96.1
III 期	76.6	80.6	79.4	81.8
IV 期	36.4	37.8	35.7	39.9
不詳	70.1	77.7	71.8	83.0
観血的治療				
有	92.4	96.4	96.1	96.7
原発巣・治癒切除	93.0	97.0	96.7	97.2
原発巣・非治癒切	85.3	89.3	87.5	90.9
除				
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	89.5	93.7	92.3	94.9
無	51.8	55.9	54.3	57.6

\*癌腫のみ対象

## 7. 食道(C15)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	21,547	250	18,385	16,763	16,762	-	16,755

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、16,755 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 10,022 例、打ち切りが 614 例であった。全体として生存状況把握割合は、96.3%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-7-1 に示す。集計対象は 16,755 例で、内男性が 14,378 例 (86%)、女性が 2,377 例 (14%) であった。年齢分布をみると、60 歳代が 37.9%と最も多く、次いで 70 歳代が 32.2%、50 歳代が 16.7%となっていた。UICC TNM 分類総合ステージをみると、I 期が最も多く 29.5%、次いでⅢ期が 25.5%、Ⅳ期が 22.2%、Ⅱ期が 19.6%であった。観血的治療の実施割合は全体で 46.3%であり、その内 86.3%が原発巣・治療切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が 23.5%であった。

表 3-7-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	14,378	100.0	2,377	100.0	16,755	100.0
年齢						
0-14 歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
15-39 歳	32	0.2	-	0.4	42	0.3
40 歳代	272	1.9	89	3.7	361	2.2
50 歳代	2,365	16.4	427	18.0	2,792	16.7
60 歳代	5,585	38.8	761	32.0	6,346	37.9
70 歳代	4,696	32.7	696	29.3	5,392	32.2
80 歳以上	1,428	9.9	394	16.6	1,822	10.9
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	4,315	30.0	625	26.3	4,940	29.5
Ⅱ期	2,731	19.0	546	23.0	3,277	19.6
Ⅲ期	3,629	25.2	642	27.0	4,271	25.5
Ⅳ期	3,253	22.6	461	19.4	3,714	22.2
不詳	294	2.0	61	2.6	355	2.1
空欄	156	1.1	42	1.8	198	1.2
観血的治療						
有	6,601	45.9	1,152	48.5	7,753	46.3
原発巣・治療切除	5,676	39.5	1,011	42.5	6,687	39.9
原発巣・非治療切除	561	3.9	82	3.4	643	3.8
原発巣・治療/非治療の別不詳	364	2.5	59	2.5	423	2.5
無	7,777	54.1	1,225	51.5	9,002	53.7
発見経緯						
がん検診	649	4.5	84	3.5	733	4.4
健康診断・人間ドック	1,168	8.1	127	5.3	1,295	7.7
他疾患経過観察中	3,486	24.2	453	19.1	3,939	23.5
その他・不明	9,075	63.1	1,713	72.1	10,788	64.4

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-7-2に示す。全体での相対生存率は、43.7%であり、男性が42.6%、女性が50.4%であった。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、5年相対生存率はⅠ期が79.7%、Ⅱ期が49.7%、Ⅲ期が26.4%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、68.2%であり、その内原発巣・治癒切除例の相対生存率は71.5%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM分類総合ステージ別、年齢別に見ても男性より女性でやや相対生存率が高い傾向が認められた。

表3-7-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	37.4	42.6	41.7	43.5	46.9	50.4	48.2	52.6	38.7	43.7	42.9	44.6
年齢												
15-39歳	38.9	39.1	22.3	55.6	-	-			41.6	41.8	26.7	56.3
40歳代	38.6	39.2	33.1	45.2	49.3	49.7	38.7	59.7	41.3	41.8	36.5	47.0
50歳代	42.7	44.2	42.1	46.3	55.9	56.7	51.8	61.4	44.8	46.2	44.2	48.1
60歳代	41.9	45.1	43.7	46.5	52.2	53.8	50.1	57.5	43.1	46.1	44.8	47.5
70歳代	34.6	41.6	40.0	43.3	47.0	51.2	47.0	55.2	36.2	42.9	41.4	44.5
80歳以上	19.3	31.8	28.4	35.4	24.9	33.7	27.9	39.9	20.5	32.3	29.3	35.4
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	68.8	78.9	77.3	80.5	79.1	85.2	81.5	88.5	70.1	79.7	78.2	81.2
Ⅱ期	42.1	47.9	45.8	50.1	54.1	58.4	53.7	62.9	44.1	49.7	47.8	51.6
Ⅲ期	22.1	24.8	23.3	26.3	33.4	35.6	31.6	39.5	23.8	26.4	25.0	27.9
Ⅳ期	9.6	10.8	9.6	12.0	15.2	16.0	12.6	19.7	10.3	11.4	10.4	12.6
不詳	15.9	19.4	14.4	25.1	27.5	30.9	18.6	44.4	17.8	21.4	16.6	26.7
観血的治療												
有	60.1	67.2	65.9	68.6	69.3	73.3	70.4	76.1	61.4	68.2	66.9	69.4
原発巣・治癒切除	63.1	70.7	69.2	72.1	71.9	76.1	73.0	78.9	64.5	71.5	70.2	72.8
原発巣・非治癒切除	34.0	38.1	33.7	42.5	36.3	38.7	27.4	50.1	34.3	38.1	34.0	42.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	52.2	58.6	52.6	64.3	68.5	72.1	57.6	82.9	54.5	60.5	55.0	65.7
無	17.6	20.7	19.7	21.7	25.5	28.1	25.4	30.9	18.7	21.7	20.8	22.7

\*癌腫が対象

## 8. 膵臓(C25)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	19,645	250	15,714	15,502	15,501	-	15,499

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、15,499 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 13,703 例、打ち切りが 542 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 96.5%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-8-1 に示す。集計対象者は、男性が 56%、女性が 44%で、全体で 15,499 例であった。診断時の年齢分布は、70 歳代が 35.0%と最も多く、次いで 60 歳代が 30.1%、80 歳以上が 17.8%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、IV 期が最も多く 48.9%、次いで II 期が 21.8%、III 期が 19.4%であった。観血的治療の実施割合は、27.2%で男女による差はなかった。観血的治療を受けた者の内、76.0%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が 27.4%であった。

表 3-8-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	8,708	100.0	6,791	100.0	15,499	100.0
年齢						
0-14 歳	-	0.0	-	0.0	-	0.0
15-39 歳	62	0.7	54	0.8	116	0.7
40 歳代	304	3.5	181	2.7	485	3.1
50 歳代	1,292	14.8	746	11.0	2,038	13.1
60 歳代	2,806	32.2	1,864	27.4	4,670	30.1
70 歳代	2,980	34.2	2,442	36.0	5,422	35.0
80 歳以上	1,263	14.5	1,501	22.1	2,764	17.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	543	6.2	420	6.2	963	6.2
II 期	1,877	21.6	1,507	22.2	3,384	21.8
III 期	1,635	18.8	1,373	20.2	3,008	19.4
IV 期	4,318	49.6	3,256	47.9	7,574	48.9
不詳	251	2.9	180	2.7	431	2.8
空欄	84	1.0	55	0.8	139	0.9
観血的治療						
有	2,430	27.9	1,785	26.3	4,215	27.2
原発巣・治癒切除	1,820	20.9	1,385	20.4	3,205	20.7
原発巣・非治癒切除	403	4.6	272	4.0	675	4.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	207	2.4	128	1.9	335	2.2
無	6,278	72.1	5,006	73.7	11,284	72.8
発見経緯						
がん検診	88	1.0	66	1.0	154	1.0
健康診断・人間ドック	389	4.5	231	3.4	620	4.0
他疾患経過観察中	2,487	28.6	1,762	25.9	4,249	27.4
その他・不明	5,744	66.0	4,732	69.7	10,476	67.6

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-8-2に示す。5年相対生存率は、全体で10.0%、男性が10.5%、女性が9.4%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後があまり良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほど同程度であった。但し、40歳代では対象者数がやや少なく95%信頼区間の幅が広がっている点に留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、相対生存率はⅠ期が43.2%、Ⅱ期が20.8%、Ⅲ期が6.5%、Ⅳ期が1.8%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は30.1%であり、その内原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は34.0%にとどまった。

表3-8-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	9.2	10.5	9.8	11.2	8.7	9.4	8.7	10.2	8.9	10.0	9.5	10.5
年齢												
15-39歳	32.5	32.7	21.2	44.6	26.7	26.8	15.5	39.4	29.9	30.0	21.7	38.7
40歳代	16.2	16.4	12.4	21.0	17.0	17.1	11.9	23.1	16.5	16.7	13.4	20.3
50歳代	9.3	9.6	8.0	11.4	10.8	10.9	8.7	13.4	9.8	10.1	8.8	11.5
60歳代	10.2	11.0	9.8	12.2	10.8	11.1	9.7	12.6	10.4	11.0	10.1	12.0
70歳代	9.0	10.9	9.7	12.2	8.2	9.0	7.8	10.3	8.7	10.0	9.1	10.9
80歳以上	4.0	6.8	5.0	8.8	3.9	5.2	4.0	6.8	4.0	5.9	4.9	7.2
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	39.9	47.2	42.3	52.1	34.7	38.1	33.0	43.2	37.7	43.2	39.6	46.8
Ⅱ期	18.8	21.5	19.5	23.6	18.4	20.0	17.9	22.2	18.6	20.8	19.4	22.4
Ⅲ期	6.5	7.4	6.1	8.9	5.1	5.4	4.2	6.8	5.9	6.5	5.6	7.5
Ⅳ期	1.7	1.9	1.5	2.4	1.5	1.6	1.2	2.1	1.6	1.8	1.5	2.1
不詳	6.5	8.1	4.7	12.6	9.2	11.1	6.4	17.4	7.6	9.3	6.4	12.9
観血的治療												
有	27.1	30.8	28.8	32.8	27.4	29.3	27.0	31.5	27.2	30.1	28.6	31.6
原発巣・治癒切除	31.5	35.8	33.4	38.3	29.7	31.8	29.2	34.4	30.7	34.0	32.2	35.8
原発巣・非治癒切除	10.4	11.6	8.4	15.3	15.2	16.3	11.9	21.3	12.3	13.5	10.8	16.4
原発巣・治癒/非治癒												
無	20.1	23.1	17.1	29.7	27.4	29.2	21.2	37.8	22.8	25.5	20.5	30.7
の別不詳												
無	2.0	2.3	1.9	2.7	1.6	1.8	1.4	2.2	1.8	2.1	1.8	2.4

\*癌腫が対象

## 9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	22, 983	235	20, 028	9, 358	9, 355	15	9, 340

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、9,340例で、5年以内に亡くなっていた者は2,476例、打ち切りが454例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は95.1%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-9-1に示す。診断時の年齢を見ると、15~39歳、40歳代と比較的若い年代が多かった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が44.3%と最も多く、次いでIII期が23.3%、II期が17.5%であった。観血的治療の実施割合は56.9%で、その内86.2%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、がん検診が14.9%、健康診断・人間ドックが3.0%であった。

表3-9-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	9, 340	100.0
年齢		
15-39 歳	2, 047	21.9
40 歳代	2, 047	21.9
50 歳代	1, 816	19.4
60 歳代	1, 574	16.9
70 歳代	1, 140	12.2
80 歳以上	716	7.7
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	4, 140	44.3
II 期	1, 631	17.5
III 期	2, 173	23.3
IV 期	1, 137	12.2
不詳	137	1.5
空欄	122	1.3
観血的治療		
有	5, 314	56.9
原発巣・治癒切除	4, 580	49.0
原発巣・非治癒切除	394	4.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	340	3.6
無	4, 026	43.1
発見経緯		
がん検診	1, 396	14.9
健康診断・人間ドック	278	3.0
他疾患経過観察中	840	9.0
その他・不明	6, 826	73.1

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-9-2に示す。全体として、実測生存率が72.9%、相対生存率が75.6%であった。70歳、80歳以上では、実測生存率と相対生存率に5%以上の差を認められるものの、その他の年代では差は5%以下であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期が95.2%、II期が80.8%、III期が61.5%、IV期が25.3%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は90.3%であり、その内、原発巣・治癒切除例では91.5%であった。

表3-9-2 属性別5年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	72.9	75.6	74.7	76.6
年齢				
15-39 歳	85.1	85.3	83.6	86.8
40 歳代	82.0	82.5	80.7	84.1
50 歳代	72.3	73.3	71.2	75.4
60 歳代	71.6	73.7	71.3	75.9
70 歳代	59.5	64.9	61.7	68.0
80 歳以上	36.7	51.7	46.6	56.8
総合ステージ*				
I 期	93.1	95.2	94.4	96.0
II 期	76.7	80.8	78.5	82.9
III 期	58.5	61.5	59.2	63.6
IV 期	24.0	25.3	22.7	28.0
不詳	50.0	54.2	44.7	63.0
観血的治療				
有	89.0	90.3	89.4	91.1
原発巣・治癒切除	90.3	91.5	90.6	92.3
原発巣・非治癒切除	77.7	79.1	74.5	83.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	85.4	86.9	82.6	90.4
無	51.3	55.5	53.8	57.2

\*癌腫のみ対象

## 10. 子宮体部(C54)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2008-2009	11,389	239	9,917	9,842	9,842	-	9,839

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、9,839例で、5年以内に亡くなっていた者が1,994例、打ち切りが273例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は97.2%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-10-1に示す。診断時の年齢を見ると、50歳代が3割以上と最も多く、次いで60歳代が27.1%、70歳代が15.4%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が57.1%、II期が7.8%、III期が17.0%、IV期が7.4%であった。観血的治療の実施割合は、90.9%であり、その内の86.0%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が13.5%であった。

表3-10-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	9,839	100.0
年齢		
15-39歳	568	5.8
40歳代	1,321	13.4
50歳代	3,254	33.1
60歳代	2,665	27.1
70歳代	1,515	15.4
80歳以上	516	5.2
UICC TNM分類総合ステージ		
I期	5,617	57.1
II期	763	7.8
III期	1,670	17.0
IV期	726	7.4
不詳	105	1.1
空欄	958	9.7
観血的治療		
有	8,941	90.9
原発巣・治癒切除	7,685	78.1
原発巣・非治癒切除	542	5.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	714	7.3
無	898	9.1
発見経緯		
がん検診	831	8.4
健康診断・人間ドック	214	2.2
他疾患経過観察中	1,330	13.5
その他・不明	7,464	75.9

\*癌腫のみ対象(子宮内膜)、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-10-2に示す。全体での5年実測生存率は79.5%、相対生存率が82.5%であった。年齢別にみると、60歳以上では相対生存率は80%を超えており、それ以降は年齢が高くなるにつれ相対生存率が低くなる傾向が認められた。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、I期が96.8%、II期が90.0%、III期が75.4%、IV期が23.5%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、87.5%であり、その内原発巣・治癒切除例では90%を超えていた。

表3-10-2 属性別5年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	79.5	82.5	81.7	83.3
年齢				
15-39歳	89.6	89.9	87.0	92.1
40歳代	89.7	90.3	88.5	91.8
50歳代	85.7	87.0	85.7	88.1
60歳代	77.7	80.0	78.3	81.5
70歳代	68.6	74.6	72.0	77.1
80歳以上	43.9	59.6	53.7	65.5
総合ステージ*				
I期	93.4	96.8	96.1	97.5
II期	86.2	90.0	87.2	92.3
III期	73.1	75.4	73.2	77.6
IV期	22.7	23.5	20.4	26.8
不詳	47.5	52.2	41.3	62.4
観血的治療				
有	84.5	87.5	86.7	88.3
原発巣・治癒切除	87.9	91.0	90.2	91.7
原発巣・非治癒切除	44.7	46.3	41.9	50.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	77.7	80.7	77.3	83.7
無	29.2	31.6	28.4	34.9

\*癌腫のみ対象(子宮内膜)

## 11. 前立腺(C61)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2008-2009	47,754	249	37,654	37,645	37,643	13	37,630

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、37,630 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 6,519 例、打ち切りが 1,198 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 96.8%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-11-1 に示す。診断時の年齢は、70 歳代が 46.3%、80 歳以上が 14.0%で、70 歳以上が半数以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、II 期が最も多く 64.8%であった。観血的治療の実施割合は、30.5%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 17%、健康診断・人間ドックが約 12%であった。

表 3-11-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	37,630	100.0
年齢		
15-39 歳	12	0.0
40 歳代	93	0.2
50 歳代	2,447	6.5
60 歳代	12,392	32.9
70 歳代	17,417	46.3
80 歳以上	5,269	14.0
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	730	1.9
II 期	24,370	64.8
III 期	5,880	15.6
IV 期	5,692	15.1
不詳	581	1.5
空欄	377	1.0
観血的治療		
有	11,459	30.5
原発巣・治癒切除	9,451	25.1
原発巣・非治癒切除	1,200	3.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	808	2.1
無	26,171	69.5
発見経緯		
がん検診	6,323	16.8
健康診断・人間ドック	4,454	11.8
他疾患経過観察中	12,111	32.2
その他・不明	14,742	39.2

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5 年生存率

2008-2009 年診断例の 5 年生存率を表 3-11-2 に示す。全体として、5 年実測生存率は 82.4%、相対生存率が 98.4%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡させている例が多いと考えられた。5 年相対生存率は、どの年代もほぼ 90%程度と高い。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期から III 期では、相対生存率は 100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらず 100%であった。

表 3-11-2 属性別 5 年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	82.4	98.4	97.9	98.9
年齢				
15-39 歳				
40 歳代	87.5	88.8	79.7	94.3
50 歳代	93.1	96.5	95.4	97.5
60 歳代	91.0	98.2	97.6	98.7
70 歳代	82.6	99.9	99.2	100.0
80 歳以上	56.1	95.0	92.6	97.2
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	84.3	100.0	100.0	100.0
II 期	89.3	100.0	100.0	100.0
III 期	87.0	100.0	100.0	100.0
IV 期	49.9	62.0	60.4	63.6
不詳	62.5	84.9	79.3	90.2
観血的治療				
有	93.9	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	94.7	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切	91.0	100.0	99.9	100.0
除				
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	88.6	100.0	97.5	100.0
無	77.3	95.5	94.9	96.2

\*癌腫のみ対象

## 12. 膀胱(C67)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0～99 歳	除外	集計対象
2008-2009	20,109	246	16,941	10,272	10,267	23	10,244

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、10,244例で、5年以内に亡くなっていた者が4,194例、打ち切りが410例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、96.0%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-12-1に示す。性別で見ると、男性が約78%、女性が約22%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代が最も多く約36%、80歳以上が約28%、60歳代が約24%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が55.8%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、87.5%で、その内74.4%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が23.1%であった。

表3-12-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	7,960	100.0	2,284	100.0	10,244	100.0
年齢						
0-14 歳	-	0.0	-	0.0	-	0.0
15-39 歳	61	0.8	20	0.9	81	0.8
40 歳代	171	2.1	45	2.0	216	2.1
50 歳代	842	10.6	175	7.7	1,017	9.9
60 歳代	2,009	25.2	398	17.4	2,407	23.5
70 歳代	2,863	36.0	793	34.7	3,656	35.7
80 歳以上	2,011	25.3	852	37.3	2,863	27.9
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	4,589	57.7	1,123	49.2	5,712	55.8
II 期	1,404	17.6	441	19.3	1,845	18.0
III 期	795	10.0	283	12.4	1,078	10.5
IV 期	839	10.5	318	13.9	1,157	11.3
不詳	197	2.5	81	3.5	278	2.7
空欄	136	1.7	38	1.7	174	1.7
観血的治療						
有	7,049	88.6	1,919	84.0	8,968	87.5
原発巣・治癒切除	5,308	66.7	1,362	59.6	6,670	65.1
原発巣・非治癒切除	941	11.8	326	14.3	1,267	12.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	800	10.1	231	10.1	1,031	10.1
無	911	11.4	365	16.0	1,276	12.5
発見経緯						
がん検診	74	0.9	21	0.9	95	0.9
健康診断・人間ドック	239	3.0	43	1.9	282	2.8
他疾患経過観察中	1,855	23.3	514	22.5	2,369	23.1
その他・不明	5,792	72.8	1,706	74.7	7,498	73.2

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 5年生存率

2008-2009年診断例の5年生存率を表3-12-2に示す。全体の5年実測生存率は58.2%、相対生存率が70.9%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては70歳代まで70%以上であるが、80歳以上では58.5%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でⅠ期が89.1%、Ⅱ期が64.5%、Ⅲ期が48.1%、Ⅳ期が19.2%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、76.8%で、その内原発巣・治癒切除例では82.8%であった。

表3-12-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	59.3	73.1	71.7	74.4	54.3	63.4	61.0	65.8	58.2	70.9	69.7	72.1
年齢												
15-39歳	83.2	83.6	71.4	91.1	-	-			85.9	86.3	76.3	92.3
40歳代	79.5	80.5	73.4	86.0	77.2	77.8	62.2	87.7	79.0	80.0	73.7	84.9
50歳代	79.3	82.0	79.0	84.7	81.9	83.0	76.3	88.1	79.7	82.2	79.5	84.6
60歳代	70.7	76.1	73.9	78.2	71.1	73.3	68.4	77.7	70.8	75.6	73.6	77.5
70歳代	60.1	73.6	71.3	75.8	58.6	64.4	60.5	68.1	59.8	71.5	69.6	73.4
80歳以上	35.6	62.4	58.6	66.1	34.3	50.7	45.9	55.5	35.2	58.8	55.8	61.8
UICC TNM分類総合ステージ												
Ⅰ期	72.6	89.9	88.2	91.4	73.7	85.9	82.7	88.8	72.8	89.1	87.6	90.5
Ⅱ期	54.2	66.6	63.3	69.8	48.7	57.7	52.0	63.2	52.9	64.5	61.6	67.3
Ⅲ期	41.5	50.4	46.1	54.6	36.2	41.7	35.1	48.3	40.1	48.1	44.5	51.6
Ⅳ期	16.8	19.9	16.9	23.0	15.4	17.4	13.1	22.2	16.4	19.2	16.7	21.8
不詳	31.1	40.6	32.2	49.3	21.7	27.5	16.6	40.1	28.4	36.9	30.0	44.0
観血的治療												
有	63.9	78.5	77.1	79.9	60.8	70.5	67.9	73.0	63.3	76.8	75.5	78.0
原発巣・治癒切除	68.5	83.8	82.2	85.3	68.5	78.9	76.0	81.7	68.5	82.8	81.4	84.1
原発巣・非治癒切除	40.4	51.0	47.0	55.0	33.6	39.4	33.4	45.5	38.6	48.0	44.6	51.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	61.1	75.1	70.8	79.2	54.3	63.9	56.0	71.3	59.6	72.6	68.8	76.2
無	22.7	29.3	25.8	33.0	18.9	24.0	19.0	29.6	21.6	27.8	24.9	30.8

\*癌腫のみ対象



## 付表一覧

### 1.生存状況把握割合について

- 0)生存状況把握割合が90%未満であった施設からの意見
- 1)調査参加施設の生存状況把握割合

### 2.都道府県別 2008-2009 年 5 年生存率集計

- 0)都道府県別生存率についての各都道府県からの意見
- 1)全がんの生存率と集計対象属性:都道府県別
- 2)胃(C16)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 3)大腸(C18-20)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 4)肝(C22)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 5)肺(C33-34)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 6)女性乳房(C50)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 7)食道(C15)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 8)膵臓(C25)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 9)子宮頸部(C53)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 10)子宮体部(C54)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 11)前立腺(C61)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 12)膀胱(C67)の生存率と集計対象属性:都道府県別

### 3.施設別 2008-2009 年 5 年生存率集計

- 1)主要5部位施設別生存率